青ノ山8号・9号墳発掘調査概報

――香川県丸亀市青ノ山山頂所在の
後期，終末期古墳――

1984年 3 月

丸亀市教育委員会

はじめに

丸亀市内で最大の吉岡神社前方後円墳の北方に尾根続きの青ノ山古墳群は、古代の豪族の首長を葬った広大な地域にわたる古墳群で、丸亀市と綾歌郡宇多津町にまたがっている。その第1号墳から6号墳までは早くから調査がすすみ、昭和54年に土地開発事業中、7号墳（通称龍塚）の破損箇所から掘り出した花崗土の中から窯壁片数点と須恵器片多数が発見され、それが須恵器の登り窯跡と確認された。

それに続いて昭和55年、県教育委員会のご助力を得て第7号墳の発掘調査が、同年9月に完了し、調査報告書に出土遺物も含めて詳細に報告された。

次に、去る昭和57年5月から県教育委員会のご協力を得て第8号墳、第9号墳の発掘調査がすすめられ、今年1月から3月にかけてその整備が完了した。いまその調査記録が詳細に報告されることは喜びにたえない。県・市教育委員会各位のご努力に対し、厚く厚く謝意を表して、調査報告書の序とする次第である。

昭和59年 3月

青ノ山山頂古墳群発掘調査団

団長　吉　岡　和喜治

＜例　言＞

1. 本書は丸亀市教育委員会が香川県教育委員会の指導で、昭和57年５月～７月に発掘調査を実施した青ノ山８号、９号墳発掘調査概要である。

2. 発掘調査は香川県教育委員会文化行政課　東原輝明が担当し、同渡部明夫の応援を得た。事務は丸亀市教育委員会社会教育課が担当した。

3. 本書は東原が執筆・編集した。

4. 発掘調査には、調査作業員として長栄清一・山田　馨・下村嘉三郎・宮本忠芳・中野茂樹・林　正之・宇野義太郎・内藤キクエ・関山幸八郎・渋谷武義の諸氏にお世話になった。

藤田憲司氏（倉敷考古館学芸員）、川畑　迪氏（坂出市郷土資料館長）、松本敏三氏、斉藤賢一氏には適切な御指導をいただいた。また香川県教育委員会文化行政課埋蔵文化担当諸氏、町川義晃氏の御助言・御協力を得た。記して謝意を表します。

＜本文　目　次＞

第１章　調査に至る経緯と調査の経過 …… 1
第２章　青ノ山８号，９号墳の位置と周辺の遺跡 …… 2
第３章　青ノ山８号墳 …… 5
　1.　墳　　丘 …… 6
　2.　埋葬主体 …… 10
　3.　遺物出土状況 …… 14
　4.　出土遺物 …… 15
第４章　青ノ山９号墳 …… 22
第５章　青ノ山に所在する古墳について …… 24
第６章　ま　と　め …… 37

＜図版　目　次＞

図版　1.　青ノ山遠景（海より） …… 41
図版　2.　青ノ山遠景（南東より） …… 41
図版　3.　青ノ山８号墳墳丘（調査前） …… 42
図版　4.　青ノ山８号墳墳頂（調査前） …… 42
図版　5.　青ノ山８号墳石室上面検出状況（北より） …… 43
図版　6.　青ノ山８号墳石室上面検出状況（東より） …… 43
図版　7.　青ノ山８号墳石室全景（北より） …… 44
図版　8.　青ノ山８号墳玄室（西より） …… 44
図版　9.　青ノ山８号墳玄室（東より） …… 45
図版 10.　青ノ山８号墳玄室（南より） …… 45
図版 11.　青ノ山８号墳仕切石周辺状況 …… 46
図版 12.　青ノ山８号墳羨道（玄室より） …… 46
図版 13.　青ノ山８号墳羨道（羨道中央より玄室をのぞむ） …… 47
図版 14.　青ノ山８号墳玄室東壁 …… 47
図版 15.　青ノ山８号墳玄室北壁 …… 48
図版 16.　青ノ山８号墳玄室南東隅 …… 48
図版 17.　青ノ山８号墳東トレンチ北壁 …… 49
図版 18.　青ノ山８号墳全景（周溝の一部，検出状況） …… 49
図版 19.　青ノ山９号墳伐開前（東より） …… 50

図版 20.　青ノ山９号墳伐開後（北より）…… 50
図版 21.　青ノ山９号墳石室（東より）…… 51
図版 22.　青ノ山９号墳石室（南より）…… 51
図版 23.　青ノ山９号墳石室（北より）…… 51
図版 24.　青ノ山８号墳出土遺物（杯，壺の蓋，器台？）…… 52
図版 25.　青ノ山８号墳出土遺物（壺，提瓶，甕）…… 53
図版 26.　青ノ山８号墳出土遺物（壺，鉄鏃，装身具，弥生土器）…… 54

＜挿図　目　次＞

第１図　青ノ山８号，９号墳と周辺の遺跡…… 2
第２図　青ノ山８号墳地形測量図…… 5
第３図　青ノ山８号墳石室断面図及び南北トレンチ土層序実測図…… 7～8
第４図　青ノ山９号墳縦断面実測図…… 7～8
第５図　青ノ山９号墳横断面実測図…… 7～8
第６図　青ノ山８号墳墳丘出土遺物実測図…… 9
第７図　青ノ山山頂からの展望…… 9
第８図　青ノ山８号墳石室上面実測図…… 10
第９図　青ノ山８号墳石室実測図…… 11～12
第10図　青ノ山８号墳石室…… 13
第11図　青ノ山８号墳遺物出土状況図…… 14
第12図　青ノ山８号墳出土須恵器実測図（№１）…… 15
第13図　青ノ山８号墳出土須恵器実測図（№２）…… 16
第14図　青ノ山８号墳出土装身具実測図…… 18
第15図　青ノ山８号墳出土鉄製品実測図…… 19
第16図　青ノ山８号墳鉄製品出土状況…… 19
第17図　青ノ山９号墳地形測量図…… 22
第18図　青ノ山９号墳石室上面実測図…… 23
第19図　青ノ山９号墳石室実測図…… 23
第20図　青ノ山所在の古墳…… 24
第21図　青ノ山７号墳石室実測図…… 27
第22図　青ノ山６号墳石室実測図…… 27
第23図　青ノ山６号墳…… 27
第24図　青ノ山３号墳…… 27

第25図　青ノ山４号墳……28
第26図　青ノ山５号墳……28
第27図　青ノ山５号墳西方の古墳……28
第28図　青ノ山北西地域に所在する古墳……28
第29図　青ノ山西麓中腹の古墳（林道上）……28
第30図　青ノ山西麓中腹の古墳（林道下）……28
第31図　青ノ山１号墳……29
第32図　青ノ山宇多津４号墳……29
第33図　青ノ山宇多津４号墳東方の古墳……29
第34図　青ノ山宇多津５号墳石室実測図……29
第35図　青ノ山２号墳……29
第36図　浄願寺山古墳群……30
第37図　母神山古墳群……30
第38図　石室平面プラン模式図一覧……35～36

＜表　目　次＞

第１表　青ノ山８号，９号墳周辺の遺跡一覧表……3
第２表　装身具計測一覧表……18
第３表　青ノ山８号墳出土須恵器観察表（№１）……20
第４表　青ノ山８号墳出土須恵器観察表（№２）……21
第５表　青ノ山古墳群一覧表……25～26
第６表　古墳時代後期～終末期における古墳一覧表（№１）……31～32
第７表　古墳時代後期～終末期における古墳一覧表（№２）……33～34

第１章　調査に至る経緯と調査の経過

青ノ山山頂付近には古墳時代後期の古墳が数基，存在することが漠然と知られていたが，この程青ノ山１号墳の南西に１基，それより南の斜面上に１基，存在することが確認された。

青ノ山山頂は昭和56年度から環境保全事業を進めており，昭和57年７月からは，これらの古墳のすぐ下を通って山頂に至る遊歩道建設にかかるためこの用地をも含めて広範囲に確認調査を実施することにした。

確認調査の結果，前述の２基以外に古墳は検出されなかった。そこで２基の処置について県教委文化行政課に相談したところ，調査後の整備保存を前提に，発掘調査を実施したらどうかという指導をいただいた。

従って発掘調査は，石室調査に重点を置き，それ以外の調査については最少限にとどめた。発掘調査は，県教委の東原輝明技師の指導のもと，昭和57年５月10日から７月30日まで実施した。

発掘調査の経過（調査日誌より抜粋）

５月10日　発掘調査初日。現状写真撮影。発掘道具搬入。

５月12日　伐開作業。９号墳，地形測量。

５月17日　９号墳，石室，E，W，N，Sトレンチ完掘。

６月１日　８号墳，墳丘表土剝ぎ。

６月７日　９号墳，石室実測。８月墳，Sトレンチ発掘。

６月10日　８号墳，石室掘り下げ。S，Eトレンチ掘り下げ。城乾婦人学級26名来訪（直井武久氏引率）。

６月15日　８号墳，石室掘り下げ。玄室より須恵器（杯，短頸壺，提瓶，台付長頸壺）出土。

６月16日　８号墳，石室掘り下げ。床面確認。杯，管玉出土。新聞記者，NHK取材。

６月17日　８号墳玄室掘り下げ。杯，直口壺，短頸壺出土。藤田憲司氏（倉敷考古館学芸員）来訪。

６月18日　８号墳，羨道発掘。NW，SW，Sトレンチ発掘。堀家市長，井沢教育長，市広報課職員来訪。

６月23日　８号墳，羨道掘り下げ。仕切り石に接し短頸壺出土。玄室精査。耳環，鉄鏃出土。玄室内埋土の水洗いでガラス玉６個検出。

６月29日　８号墳，前庭部ほぼ完掘。川畑迪氏（坂出市郷土資料館長）来訪。

７月２日　８号墳，Eトレンチ完掘。９号墳トレンチ土層序線引き。９号墳トレンチ埋め戻し。

７月６日　８号墳，石室などの写真撮影。

７月９日　８号墳，石室実測開始。市教育民生委員会委員７名視察。

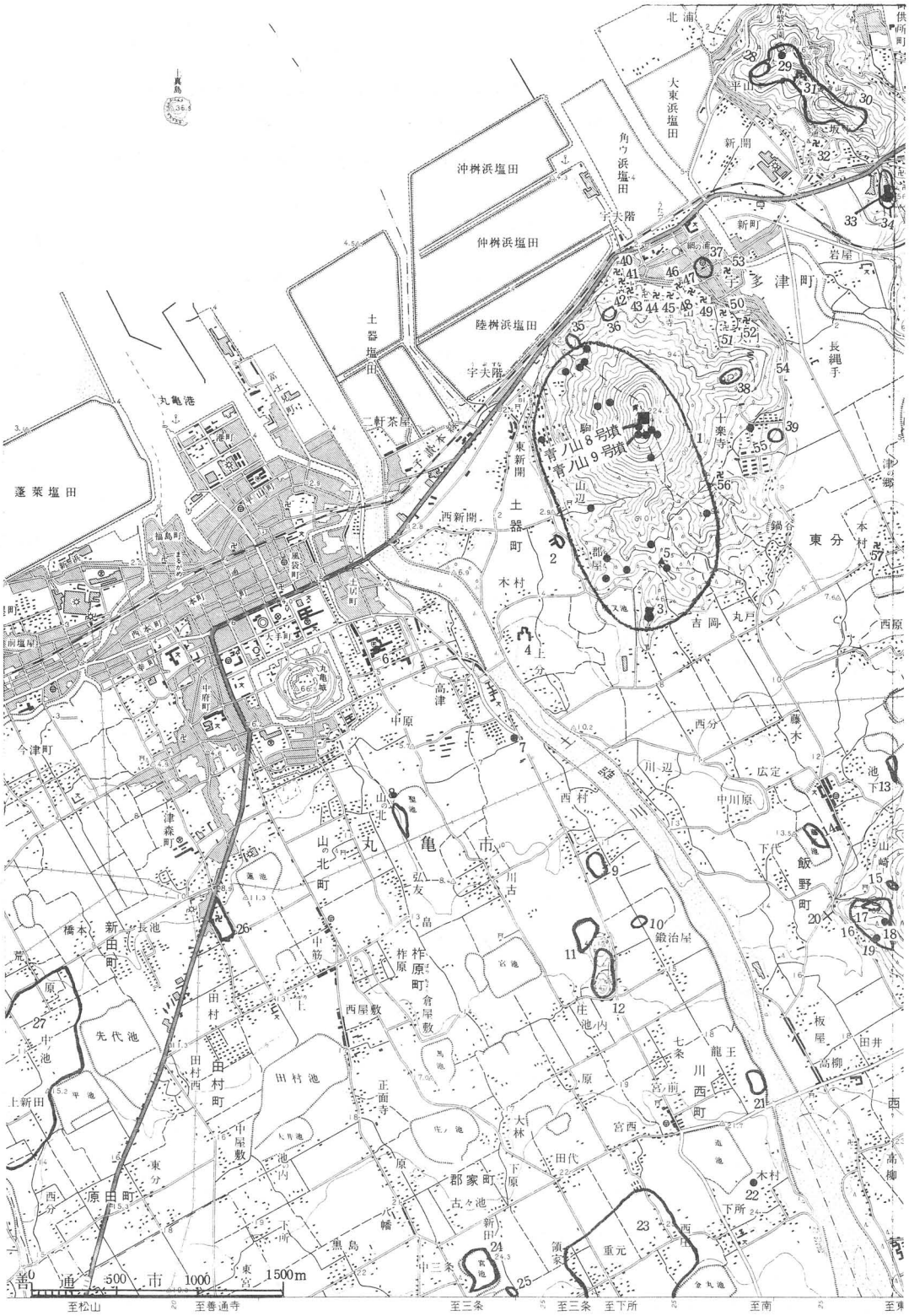
７月20日　８号墳，玄室４壁実測終了。

７月22日　８号墳，玄室床面実測。羨道壁実測。

７月28日　８号墳，羨道部壁実測終了。８号墳石室上面実測終了。

７月30日　８号墳各トレンチ土層実測。現場での調査終了。

第2章　青ノ山8号，9号墳の位置と周辺の遺跡



第1図　　青ノ山8号，9号墳と周辺の遺跡

第１表　青ノ山８号・９号墳周辺の遺跡一覧表

番号	遺跡名	種別	所在地	遺跡の概要
1	青ノ山古墳群	古墳	丸亀市飯野町，宇多津町青ノ山	古墳時代後期～終末期の古墳群
2		散布地	丸亀市土器町	土師器散布地
3	吉岡神社古墳	古墳	丸亀市飯野町	古墳時代前期。全長50mの前方後円墳，銅鏃，筒形銅器出土
4	青ノ山城跡	城跡	丸亀市土器町上分	生駒家の家臣，尾池玄蕃の居城
5	青ノ山1号窯跡	窯跡	丸亀市飯野町	全地下式無段登り窯，６世紀末～７世紀前半操業。須恵器窯
6	土居高木塚古墳	古墳	丸亀市城東町	古墳時代後期，円墳（径８ｍ）　刀剣出土，消滅
7		古墳	丸亀市土器町高津	消滅。埴輪，高杯など出土
8		散布地	丸亀市山北町中原聖池	須恵器散布地
9		散布地	丸亀市土器町	弥生土器（後期）
10		散布地	丸亀市土器町	須恵器散布地
11		散布地	丸亀市土器町	須恵器散布地
12		散布地	丸亀市土器町	須恵器，土師器
13		散布地	丸亀市飯野町	石器，石鏃
14		散布地	丸亀市飯野町	弥生時代～中世の土器散布地
15		散布地	丸亀市飯野町	石器，須恵器
16		散布地	丸亀市飯野町	石器，弥生土器，須恵器
17		古墳	丸亀市飯野町	かつて数基存在。すべて消滅
18		古墳	丸亀市飯野町	石室石材一部露出。竪穴式石室か？
19		石棺	丸亀市飯野町	箱式石棺。消滅
20	高丸塚	塚	丸亀市飯野町	
21		散布地	丸亀市土器町	土師器
22	行者塚古墳	古墳	丸亀市川西町	消滅
23		散布地	丸亀市郡家町領家	土師器散布地
24		散布地	丸亀市郡家町	土師器
25		散布地	丸亀市郡家町	須恵器
26	田村廃寺	寺跡	丸亀市田村町道東	塔心礎（長径2.2ｍ，短径1.9ｍ，高さ84cm）
27	中ノ池遺跡		丸亀市金倉町	弥生時代前期，祭祀遺構，大溝
28	平山遺跡	散布地	宇多津町平山	ナイフ形石器，石核
29	聖通寺山古墳	古墳	宇多津町平山	積石塚，円墳（径20ｍ）
30	聖通寺城跡	城跡	宇多津町坂下	山城。土塁，空濠など残存
31	平山城跡	城跡	宇多津町平山	山城
32	聖通寺跡	寺跡	宇多津町坂下西	平安時代創建
33	田尾茶臼山古墳	古墳	宇多津町茶臼山	全長79mの前方後円墳
34	茶臼山遺跡	散布地	宇多津町茶臼山	ナイフ形石器，舟底形石器，尖頭器
35	青ノ山貝塚	貝塚	宇多津町西町	
36	西町遺跡	散布地	宇多津町西町	土師器，須恵器
37	伊勢町遺跡	散布地	宇多津町伊勢町	弥生時代～江戸時代の複合遺跡
38	丸山遺跡	散布地	宇多津町青ノ山	土師器

番号	遺跡名	種別	所在地	遺跡の概要
39	十楽寺東遺跡	散布地	宇多津町十楽寺	中世末～近世初頭の土器散布地
40	宇夫階神社跡	神社跡	宇多津町西町	1467年創建
41	神宮寺跡	寺跡	宇多津町西町	宇夫階神社の別当寺
42	安養寺跡	寺跡	宇多津町西町	本妙寺の末寺
43	本妙寺跡	寺跡	宇多津町西町	城郭伽藍の寺
44	弘徳寺跡	寺跡	宇多津町西町	
45	郷照寺跡	寺跡	宇多津町山下	
46	浄願寺跡	寺跡	宇多津町山下	浄願寺の前身
47	聖徳院跡	寺跡	宇多津町山下	
48	南隆寺跡	寺跡	宇多津町山下	
49	安国寺跡	寺跡	宇多津町大門	細川顕氏建立
50	多聞寺跡	寺跡	宇多津町大門	細川頼之の居館跡ともいわれる
51	円通寺跡	寺跡	宇多津町大門	鎌倉時代建立
52	慈光寺跡	寺跡	宇多津町大門	
53	西光寺跡	寺跡	宇多津町網浦	城郭伽藍の寺
54	普済院跡	寺跡	宇多津町十楽寺	細川頼之建立
55	十楽寺跡	寺跡	宇多津町十楽寺	
56	鍋谷道場跡	寺跡	宇多津町十楽寺	西光寺の前身
57	法楽寺跡	寺跡	宇多津町本村西	

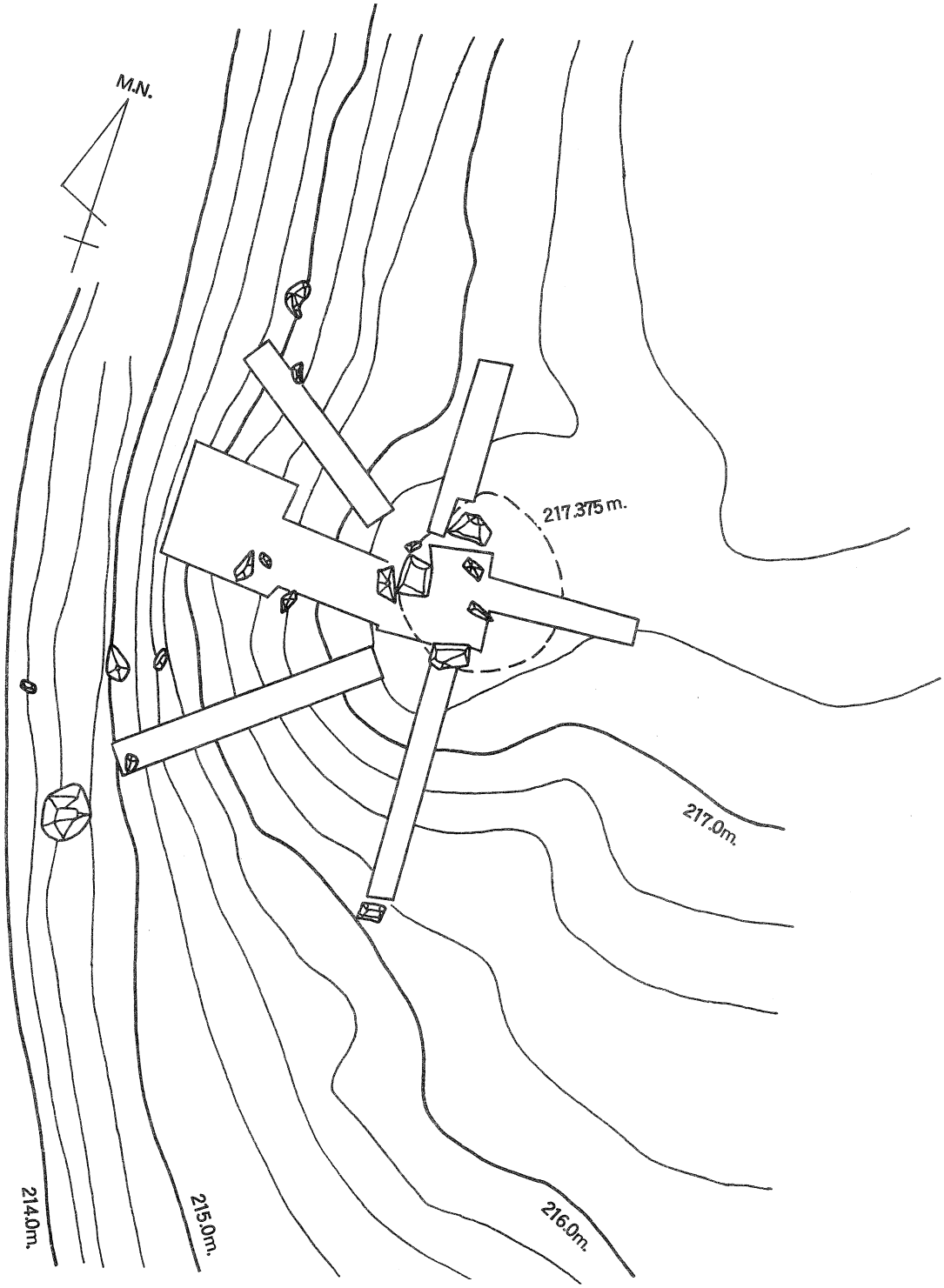
青ノ山は土器川と大束川に挟まれた沖積平野に所在する標高224.5mの独立峰である。現在，青ノ山には23基の古墳が確認され，群集墳を形成している。青ノ山8号，9号墳は山頂部に立地する後期，及び終末期の古墳である。

古墳は青ノ山以外に聖通寺山，茶臼山，飯野山などに築造されている。田尾茶臼山古墳（全長79mの前方後円墳）は青ノ山所在の吉岡神社古墳（全長50mの前方後円墳）とともに前期古墳として著名である。中期には墓地公園東古墳，青ノ山2号墳が築造されたとされているが詳細は不明である。後期～終末期になると青ノ山には多くの古墳が築造され群集墳を形成している。

そのような古墳時代の隆盛は弥生時代における農耕経済の発展を基盤としていることは言うに及ばない。昭和56年度に発掘調査が実施され，祭祀遺構を検出し，多量の弥生土器を出土した中ノ池遺跡は三井遺跡（多度津町），五条遺跡（善通寺市）とともに前期の遺跡として著名である。中後期の遺跡については調査がなく不詳であるが，飯野山西麓や青ノ山東南麓から弥生土器や石器が出土している。近年，道路工事現場などから丸亀平野各地で弥生土器が出土し，弥生時代における文化圏の広がりが確認されつつある。今後の調査に期待したい。

弥生時代以前の遺跡はあまり知られていない。

律令政治開始とともに，当該地域は那珂郡に属し，N30°W の条里制地割が施行された。田村廃寺，宝幢寺が建立されている。



第2図　　青ノ山8号墳地形測量図

0　5　10m

1. 墳　丘

調査前の墳頂部には安山岩の割石が7個散在し，大きいものは1.2m，1.3mを計測した。そのことから8号墳の主体部は横穴式石室であろうという予測ができた。

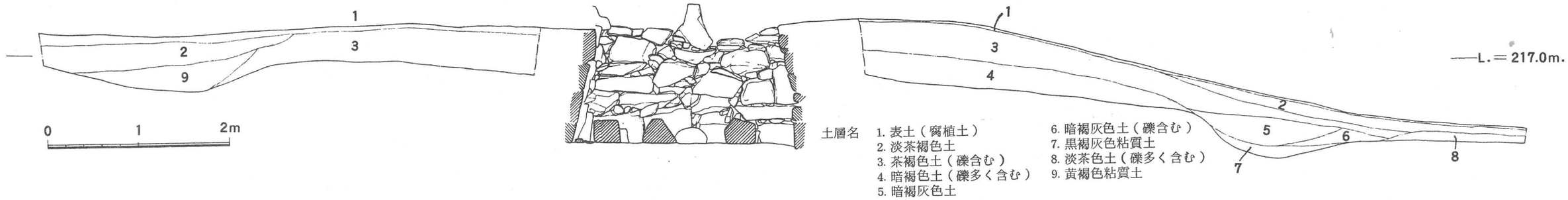
8号墳は青ノ山1号墳から南方約100mに位置する。しかし，その立地は山頂から南延する稜線上ではなく，西斜面上である。地形測量図からも216m以上の等高線は，それ以下の等高線同様に北部から直線的に下がるが，南東部にかけては緩やかに円弧を描いていただろうと推測できる。さらに各等高線は第2図には表現されていない東側で変曲点があり，その点から右上がりになっている。即ち，8号墳は，稜線から西へ瘤状に突出した緩斜面に築造されているのである。さらに地形測量図の観察を続けると216.5～217.25m間の等高線のみだれが確認できる。そのみだれは，南北トレンチ発掘調査で周溝に起因していることが判明した。

周溝の検出により8号墳の墳丘規模は周溝底内側計測で約12.5mという数値が算出された。さらに南，北トレンチの周溝間の中点は，玄室の中心に存在することが確認できた。ところで，墳丘規模，盛土状況を把握するためのトレンチは，5本設定し発掘した（第2図）。その結果，周溝が検出されたのは，前述の南，北トレンチだけである。周溝は地山を掘り込み形成されている。東トレンチでは，遊戯具が設定され，周溝予想位置までトレンチを延長できなかった。北西，南西トレンチでは，周溝は検出されなかった。以上より周溝は南，北トレンチと北西，南西トレンチ間で途切れたということが推定できる。全面発掘すれば，所謂，東向きの馬蹄形状溝が検出される可能性が高い。南トレンチの溝は幅1.6m，深さ30㎝，底部には薄く黒褐灰色粘質土が堆積している。5～6層の土質は基本的には同質で，おそらく盛土が流出したものと思われる。土層序の線引き根拠は主に角礫含有率である。8層は流下度の高い礫を最多に含む層である。溝底は，石室の床面とほぼ同レベルで216.0mを測る。北トレンチの溝は幅2m，深さ30㎝を計測する。溝断面は南トレンチ同様，墳丘側の傾斜が急でシンメトリーではない。溝底のレベルは南トレンチより約65㎝高いが，築造前の地形レベル差と考えて差し支えないように思われる。

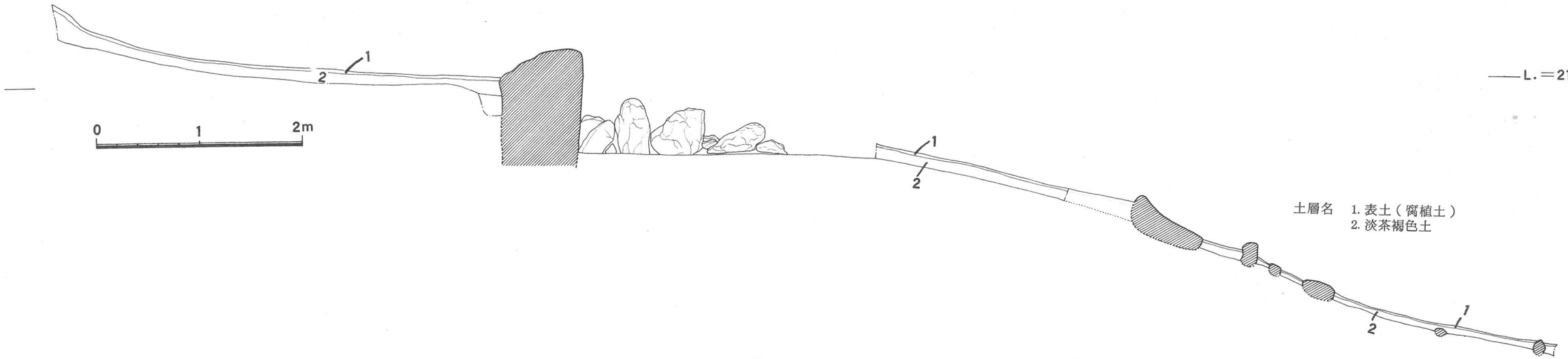
墳丘の盛土は，5㎝前後の角礫を多量に含有した茶褐色土あるいは，暗褐色土である。盛土過程においては，一気に盛り上げられたと推定する。特別に版築工法，瓦層積み工法を実施したとは思われない。

掘り方が確認できたのは東トレンチである。石室基底石より約1.6～0.5mまでは傾斜角20°で，緩やかに削り，0.5～0.4mまでは傾斜角75°で掘削して地山整形を行っている。石室構築過程においては，裏込め石材はほとんど使用せず5～6層の平行土層，所謂，版築工法により石室主体部を補強している（図版17）。

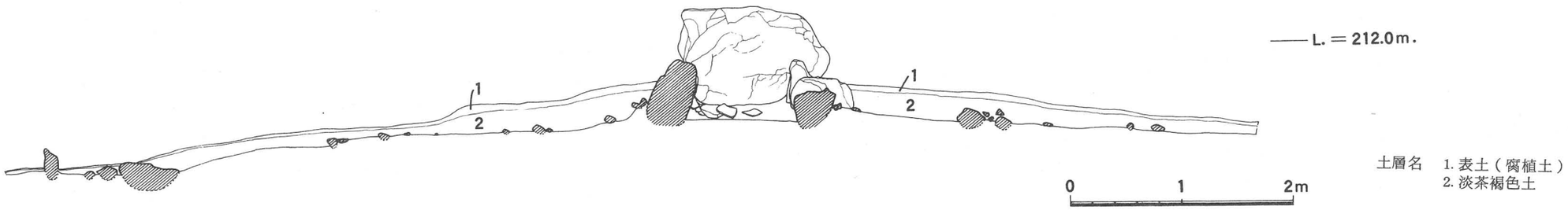
墳丘盛土からの出土遺物は須恵器の甕（第6図①），土師器片，弥生土器片（第6図②～④）である。須恵器の甕は南西トレンチ及び，南西トレンチと南トレンチ間の現墳丘上から出土し，その出土位置は墳丘裾部に該当する。口頸部から体部にかけての破片が多数出土している。その外面は平行タタキ目，内面は同心円タタキ目が施され器面調整されている。祭祀的な行事に使用したものであろうか。土師器は壷形土器体部の破片が数片，弥生土器は甕形土器の口縁部，体部などや高杯の脚部の破片が数片，出土している。実測図②，③は甕形土器である。口縁部末端が



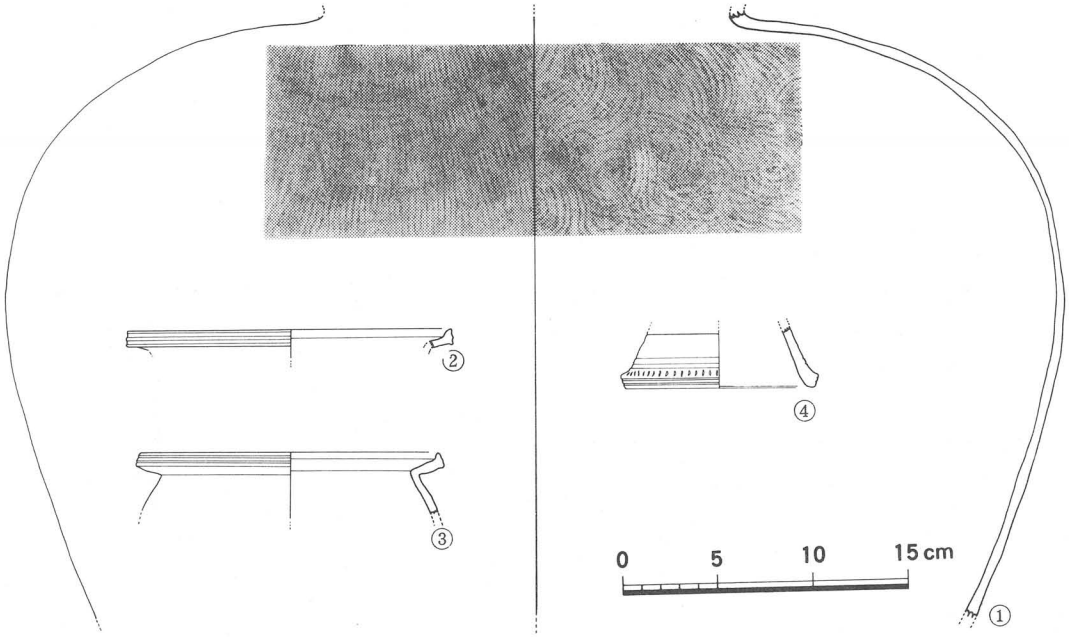
第３図　青ノ山８号墳石室断面図及び南北トレンチ土層序実測図



第４図　青ノ山９号墳縦断面実測図



第５図　青ノ山９号墳横断面実測図

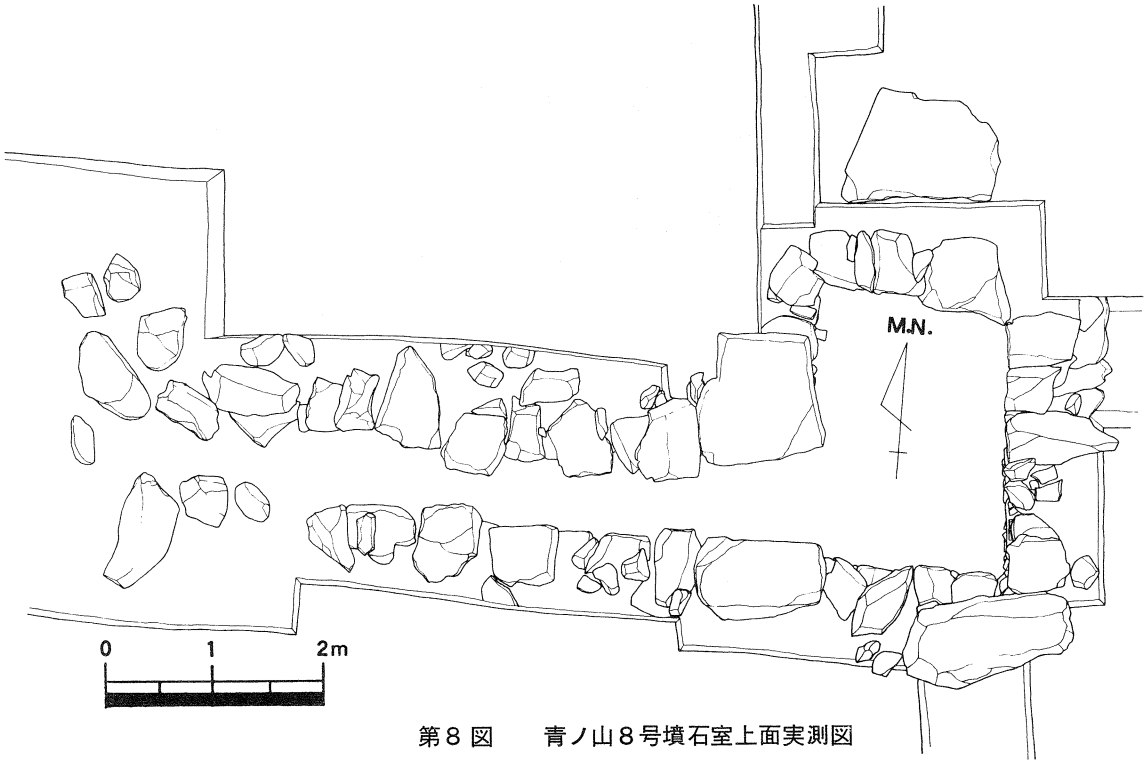


第６図　　青ノ山８号墳墳丘出土遺物実測図

折り返し手法で拡張され，その部分に凹線が施される。④図は高杯の脚部である。高橋譲氏編年の第４様式に該当し，弥生時代中期後半に比定できる。

弥生土器は今回の発掘調査に[※1]おける副産品である。さて紫雲出山，源氏ケ峰，台山など海岸近くの山頂から，[※2]弥生時代中期の土器が多量に出土している。それらは高地性集落と呼ばれ，戦略基地的な性格をもった遺跡である[※3]。青ノ山も同様な基地的性格をもつ高地性集落遺跡と考えられる。因に，青ノ山山頂からは近年，発掘調査を実施した与島，羽佐島，岩黒島，櫃石島など備讃瀬戸の島々や対岸の岡山県児島半島なども鳥瞰できる。

第７図　　青ノ山山頂からの展望



第８図　　青ノ山８号墳石室上面実測図

2. 埋葬主体

地山整形は，西斜面を等高線に対し垂直方向に掘り込んで削平し，石室構築の基礎を築いている。玄室は14の基底石で構成され，内法 1.8 m×2.4 m の平面プランを呈している。特徴ある基底石は玄室と羨道に跨る兼用石である。それは約70㎝×70㎝×40㎝の大型平板石材で,平面プランの基準石と思われる。と同時に横長に据えることによって横長の２面を利用し，かつ安定感を与えている。その上部にも同様の大型平板石が５個積み上げられている。それらは石室構築時にレベルを整える示準となっているようだ。羨道は羨門付近が破壊され，長さ等の規模は不明である。現存長４m，幅 1.0 m～1.2 mで羨道幅は漸次，減じられている。

石室平面プランは玄室南壁と羨道南壁が一直線となる片袖形であるが，玄室の短辺壁と羨道壁が連結するのは特異である。昭和51年に青ノ山南裾部で発掘調査を実施した青ノ山６号墳も類似の平面プランでＬ字形石室という呼称で報告されている。

石室石材は全て安山岩である。玄室は５～６段の横口積みで整然と構築され，間隙には丁寧に詰石を充填している。羨道部の石材は形，大きさともに多様で面取りも不規則であり，壁は凹凸を生じている。羨道北壁は根の圧迫により羨道側へせり出している。玄室と比較すると構築は粗雑である。石室構築は持ち送り方式が採択されている。

玄室床面には平坦な5～30㎝の自然石が全面に貼付されていたと思われる。しかし調査時には，

第９図　　青ノ山８号墳石室実測図

仕切石付近と玄室北壁際に遺存しているにすぎなかった。盗掘などによる攪乱のためと推察している。敷石は重なり合いがなく一面で，ほぼ同レベルを計測している。敷石は羨道には検出されなかった。

玄室には6個の棺台石と思われる石材が1.1m×1.8mの範囲に遺存している。大きさは一様ではないが，上面に平坦面を有するのが共通する特徴である。平均的数値は30㎝×40㎝×25㎝である。棺台石は南北方向に2列配しているが，東側列の上面レベルが6～7㎝低い。2遺体を安置したのであろうか。木棺を使用したと思われるが鉄釘など木棺に関わる遺物は検出されなかった。

玄室と羨道を画する仕切石は長1.2m，幅20～30㎝，高さ20～30㎝を計測する。上面は平坦面であるが，羨道側へ少し傾斜している。遺物はこの仕切石周辺に多く出土している。踏切石としての機能以外に祭祀祭壇的な機能を有していたのかもしれない。

羨道には多数の転落石があり，閉塞石と判断することが困難であった。しかし，図化した石群を閉塞石と考えた。それらの状況は，仕切石から1.8m離れた所にほぼ一直線に並ぶ4石があり，その西側の幅1.2mに十数石が存在している。

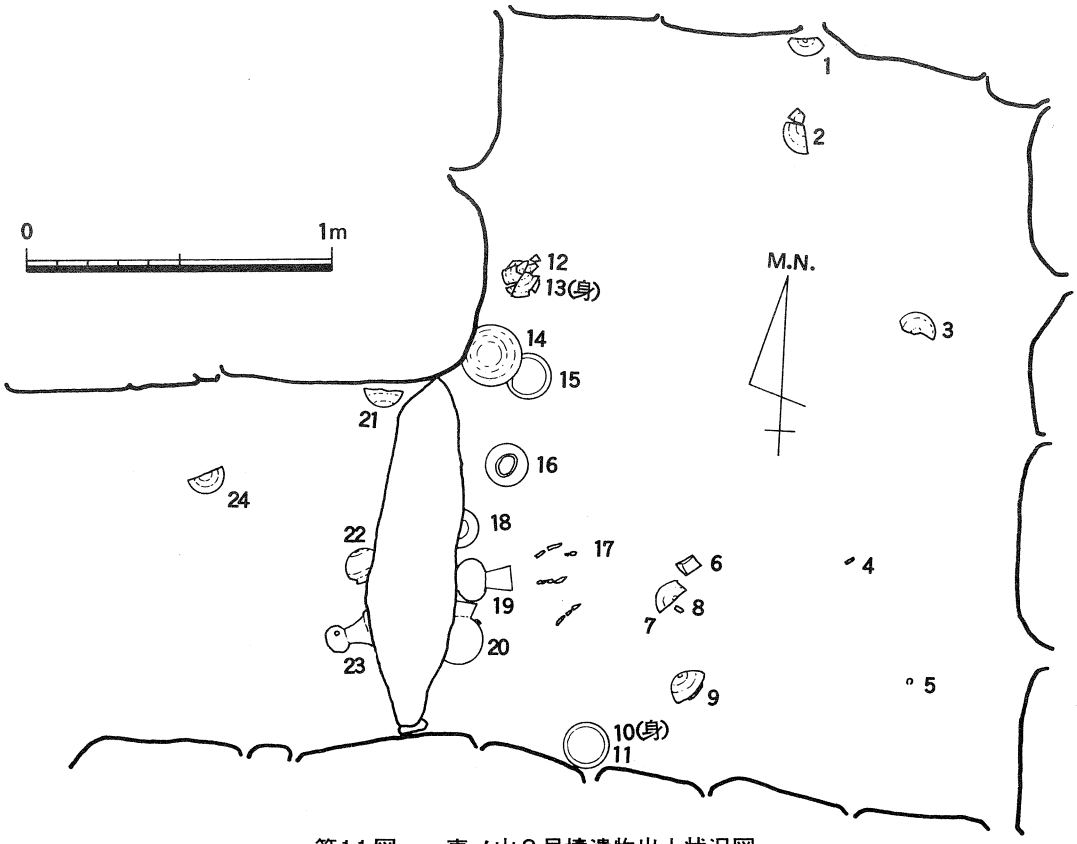
羨門付近は精査したが羨門石の位置，墓道などはわからなかった。ただ，刀子，須恵器の杯が羨門と推定する付近から出土しており，墓前祭祀跡を彷彿させる。

石　室

玄　室

第10図　青ノ山8号墳石室

3. 遺物出土状況



第11図　青ノ山8号墳遺物出土状況図

第11図は玄室及び，羨道の一部における遺物の出土状況を示している。遺物は他に羨門付近やトレンチなどからも出土している。

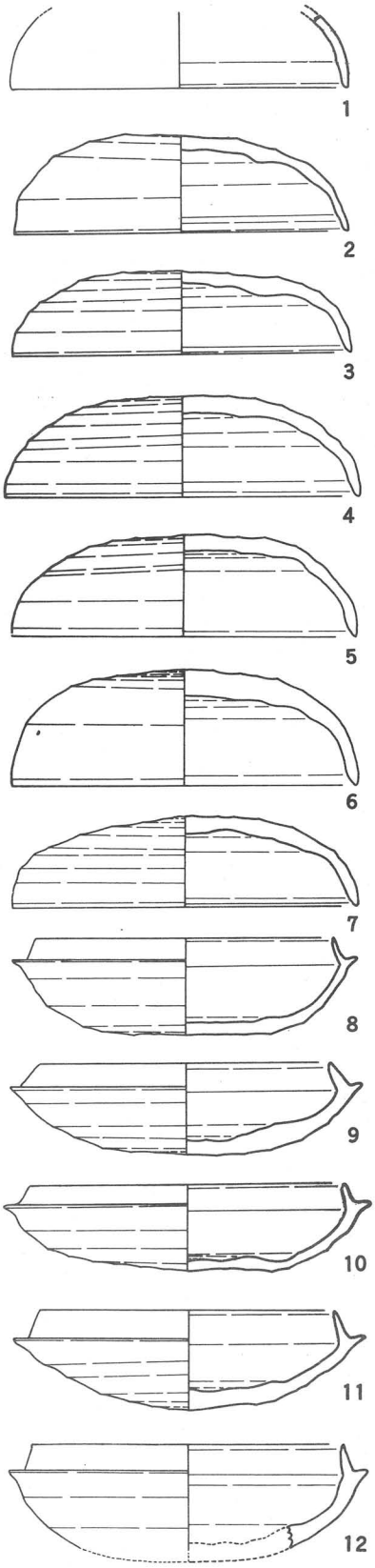
出土状況の特徴は，仕切石を中心に遺物が配置されていることである。完形品である提瓶，台付長頸壺，有蓋短頸壺は玄室側で，また無蓋短頸壺，瓢は羨道側で仕切石に接し原位置を保っていると思われる。仕切石から離れる遺物は杯が多く，そのほとんどが半壊している。また，それら（第11図　2, 3, 6, 7, 21, 24）の出土したレベルは床面より約15㎝高い。さらに7と24の杯は接合できるなどから，それらは原位置を保持しているとは言い難い。

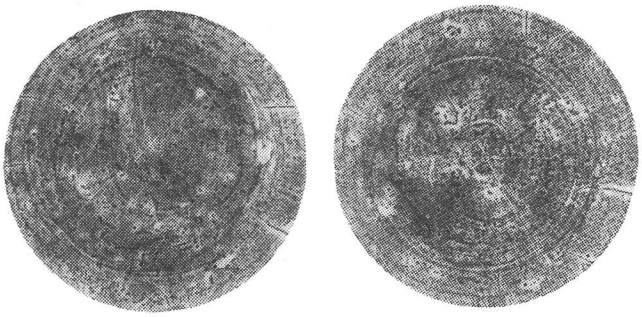
1は短頸壷の蓋であるが，偶然にも東トレンチの石室基底石裏側から接合可能な破片を出土した。そのことは本墳築造の初期段階，即ち，石室の基底石を設置した頃に，蓋の半分を玄室に，残り半分を玄室外に投じたという事実を物語っている。8号墳築造時期はその行為時であると断定できる。でも，なぜそのような行為をしたのだろうか，謎である。

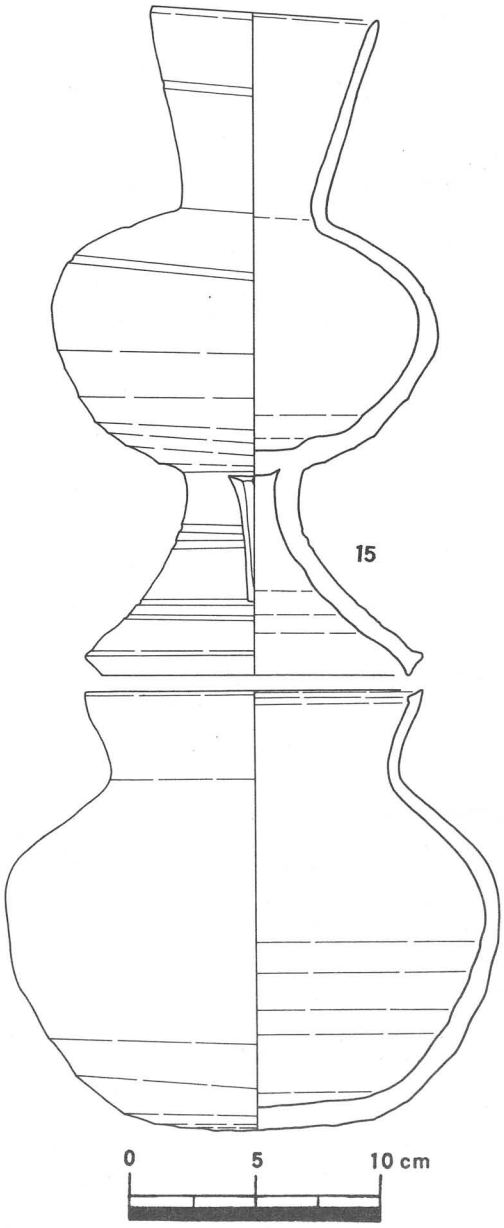
4, 8は管玉，5は金環，17は鉄製品（鉄鏃）である。6は器台の可能性もある。10,11は杯の身と蓋で，蓋が下，身が上という重なった状態で出土したがセット関係にはならない。12,13は正常に蓋された状態で，セット関係にある。

羨門付近からは刀子，杯，墳丘裾部からは須恵器の甕が出土し，墓前祭祀的色彩が強い。

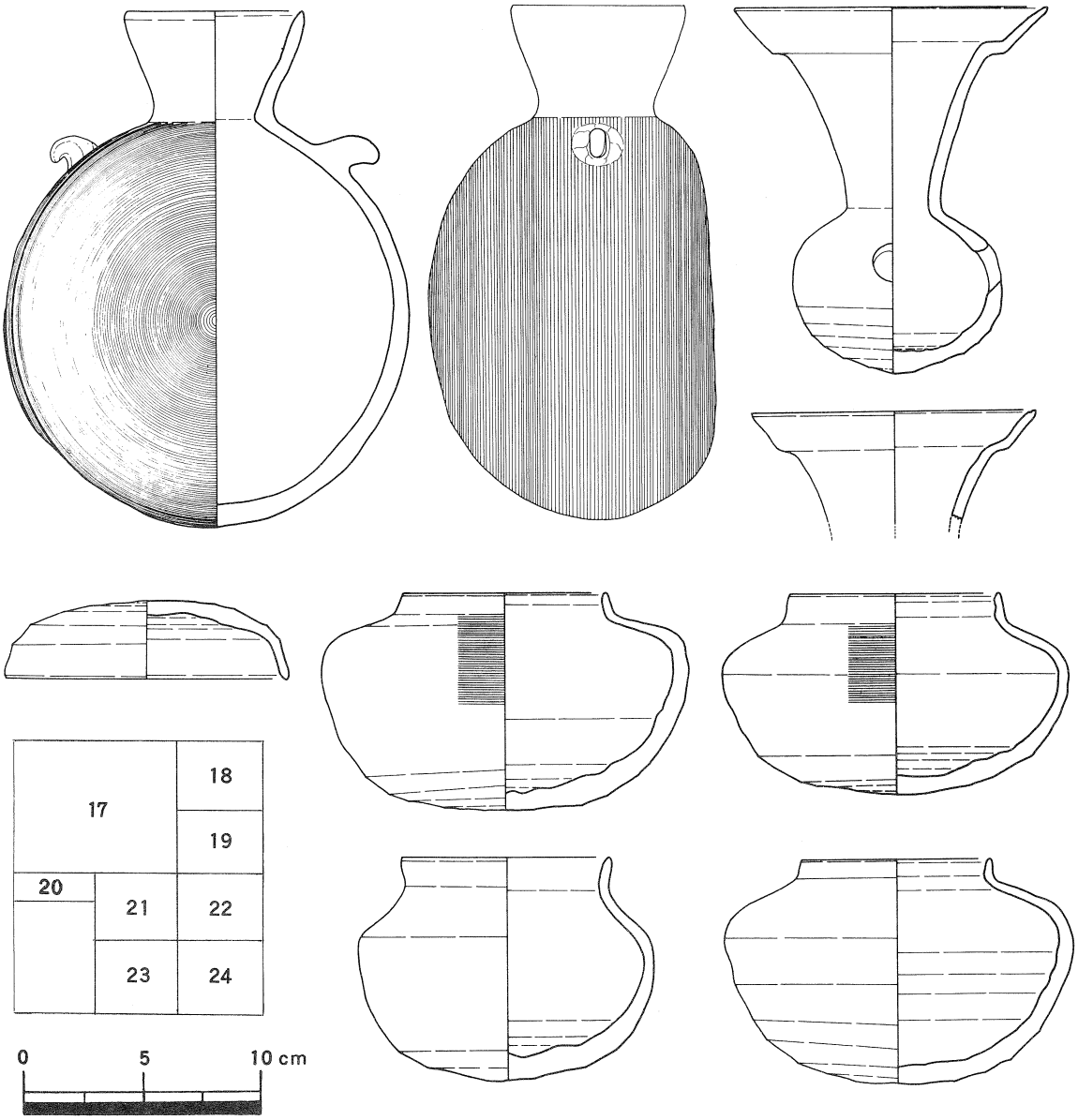
4. 出土遺物







第12図　青ノ山8号墳出土須恵器実測図(No.1)



第13図　青ノ山8号墳出土須恵器実測図(No.2)

(1) 須恵器(第12,13図)

① 蓋　杯(1～14)

1～7は杯蓋，8～12は杯身である。1,12の小片，7の½片以外は完形或いは接合復原により完形に近い状態にある。1,2は器壁が薄く口縁端部内側に稜を持つことでやや古い様相を呈している。3は天井部が扁平で外面に「×」のヘラ記号を有す。4,5はともに天井部から口縁部にかけてなだらかに下る。6は器壁が厚く，重量感がある。天井部のヘラ削り範囲は⅓程度で狭い。器高は高く，口縁部が直立に近い。7は口縁端部内側にヘラ状工具による沈線を廻している。全体的に歪みがある。8は器壁が薄く精巧である。器面は胎土にほとんど

砂粒を含まないため非常に滑らかである。焼成は良好で堅緻である。8の特徴は2についてもいえる。ロクロ回転方向は2と8が左で，他は全て右である。また2と8は重なり合った状態で出土している，などから明らかにセット関係にあるといえる。9の底部外面には「×」のヘラ記号がある。3とは出土位置が異なるが胎土，焼成，色調とも類似しているのでセットと考える。10は器高が低く扁平である。11は5と胎土，焼成，色調などが類似しているのでセットと考えたい。12は器壁が厚く，全体的に重みがある。6とセットか。13,14は3,9のヘラ記号拓影図である。

以上，個体数は杯蓋7，杯身5でそのうちセット関係にあると考えるものが4組である。従って全てセットで副葬されたと仮定すれば，少なくとも8組以上ということになる。

② 台付長頸壺（15）

器高は26.5㎝を計る。高さ18.5㎝の丸底長頸壺に大きく開いた台部が貼付けられている。口頸部は直線的で壺体部最大径は中央よりやや上位にある。口頸部の上位⅓及び肩部には浅いが凹線が一条廻っている。台部には細長い長方形の透し窓が3方向に穿たれている。透し窓の中央とその下部には2条の凹線が廻っている。長頸壺と台部との接合状態が中軸線からずれており，アンバランスな様相を呈している。母神山古墳群千尋支群第6号墳[※5]から類似のものが出土している。

③ 直口壺（16）

口頸部は短く，外反するが端部近くで内彎する。端部は平坦面が内傾し断面が三角形を呈する。体部は頸部から肩部，肩部から底部にかけてやや直線的であり底部も平坦に整形している。底部外面には指頭圧痕が顕著である。器高17.4㎝。

④ 提　瓶（17）

口縁部は短く，内彎気味にのびる。鉤状の把手は退化段階途上にある。体部前面は接合部より約8㎝張り出し緩やかな弧状を呈するが背面は平坦である。体部は径17.1㎝で回転カキ目調整が施されている。整形，調整ともやや粗雑である。器高21.8㎝。

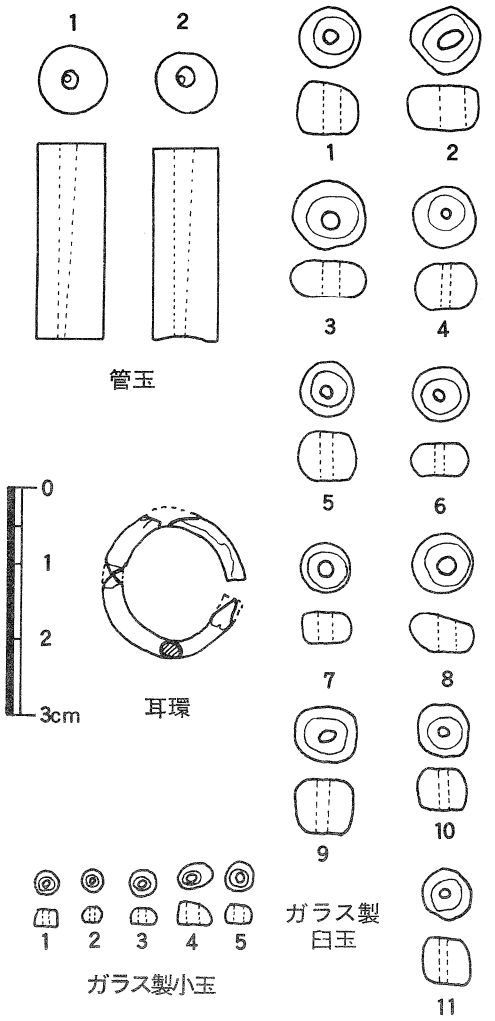
⑤ 瓿（18,19）

18は完形で羨道側の仕切石に接して出土している。口頸部は締った基部からラッパ状に大きく開き，端部で段をなす。体部は球形で最大径は，ほぼ中央に求められる。円孔は径1.6㎝で上外方から下向きに穿たれている。19は口頸部だけ出土したものであるが，その特徴から18と同様の形態であろうと思われる。

⑥ 短頸壺（20～24）

20は短頸壺の蓋である。前述したが，玄室奥壁際から½片，東トレンチ玄室基底石裏側から⅔片が出土し，偶然にも接合したものである。やや平坦な天井部から口縁部は「く」字形に屈曲している。暗い灰青色で口径11.7㎝。21,22,24は有蓋短頸壺。口頸部が短く，体部上位で肩を強く張り出した扁平な形態は共通している。21,24は蓋をした状態で焼かれた痕跡がある。21,22の肩部は回転カキ目調整。23は無蓋短頸壺。焼成は軟質で淡黄灰色である。口頸部は外反気味に立ちあがり，端部は厚味を増し丸くおさめている。口頸部から肩部にかけてはなだらかである。器高9.4㎝。

須恵器の特徴については，須恵器観察表（第3,4表）にまとめているので参照されたい。



第14図　青ノ山８号墳出土装身具実測図

ガラス製臼玉計測値　(mm)

番号	径	長	孔径	色　調
1	8.1	7.0	2.0	紺色（不透明）
2	9.8	6.2	3.2	紺色（不透明）
3	10.1	5.0	2.3	紺色（不透明）
4	8.4	6.0	1.0	紺色（不透明）
5	8.1	6.7	1.8	紺色（不透明）
6	8.1	4.4	1.0	紺色（不透明）
7	6.5	4.5	1.7	紺色（不透明）
8	8.5	5.0	2.4	紺色（不透明）
9	8.3	7.0	1.8	紺色（不透明）
10	7.1	5.5	1.3	紺色（不透明）
11	6.8	6.5	1.0	紺色（不透明）

管玉計測値　(mm)

1	9.5	26.0	1.0～2.2	濃い緑色
2	8.5	25.5	1.1～2.6	濃い緑色

ガラス製小玉計測値　(mm)

1	4.4	2.2	1.0	淡黄色（不透明）
2	3.0	2.1	0.8	黄　色（不透明）
3	3.8	2.1	1.0	黄緑色（不透明）
4	4.6	3.2	1.5	淡灰青色（不透明）
5	4.0	2.8	1.4	淡紺色（不透明）

耳環計測値　(mm)

径	断面径	切目幅	色　調　な　ど
20.0	2.5	2.0	細身の銅芯に金箔。但し金箔はほんの一部のみで、全体に銹化が著しく淡い緑青を生じている。

第２表　装身具計測一覧表

(2)　装身具類（第14図）

①　管　玉

２個出土。計測値によれば径，長，孔径ともにほぼ同じ大きさである。孔は一方から穿たれた傾孔である。截面は２の片方が漏斗状に凹んでいる以外は平坦でよく研磨されている。碧玉製で濃い緑色。

②　ガラス製臼玉

11個検出。色調は全て不透明の紺色である。大きさは径6.5～10.1㎜，長4.4～7.0㎜で個個にばらつきがあり不揃いである。形状も個性的で平面観で円形，隅丸方形，楕円形など，側面観で直線型，円弧型，左右アンバラス型などを呈している。穿孔は一方からなされている。

③　ガラス製小玉

５個検出。５個の計測値幅は径3.0～4.6㎜，長2.1～3.2㎜。色調は全て異なるが黄色系統３，青色系統２に分類できる。

④　耳　環

玄室南東隅付近から１点出土。径２㎝，断面径2.5㎜。２箇所で折れていて３片よりなる。細身の銅芯に金箔を渡金している。表面は金箔がほとんど剝離し，銹化による淡い緑青をふいている。

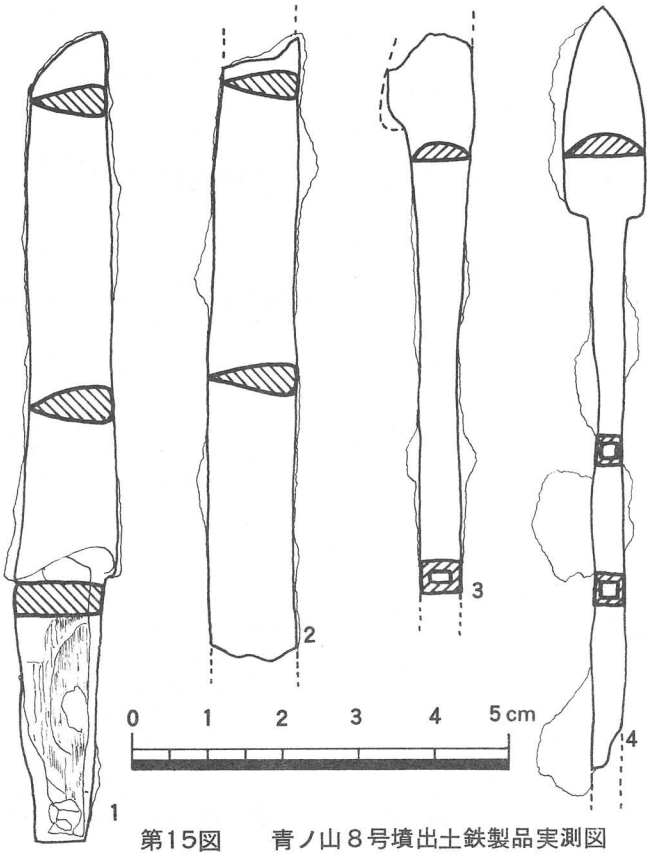
(3) 鉄製品（第15図）

① 刀子（1,2）

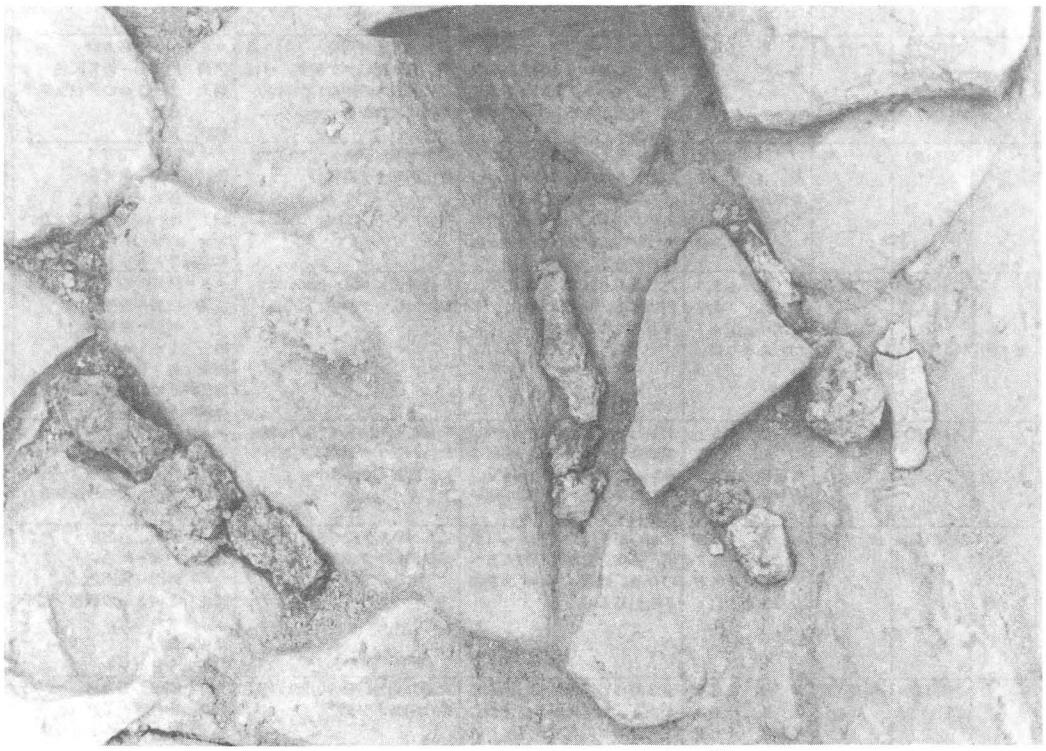
2点出土。1は完形で刃長7.2㎝，刃幅1.2㎝，茎長3.5㎝を計る。茎には木質が付着している。2は刃部の一部である。刃幅は1とほぼ同幅の1.2㎝を計るが，刃長は長くなりそうだ。

② 鉄　鏃（3,4）

完形のものは出土していない。3は鏃身部の大半及び茎部を破損している。鏃身部の形状は刀子式と思われる。箆被部は断面長方形で長い。4は鏃身部が完存している。鏃身部は剣先状を呈し，片丸造りである。鏃身長2.8㎝，鏃身幅1.0㎝。



第15図　青ノ山8号墳出土鉄製品実測図



第16図　青ノ山8号墳鉄製品出土状況

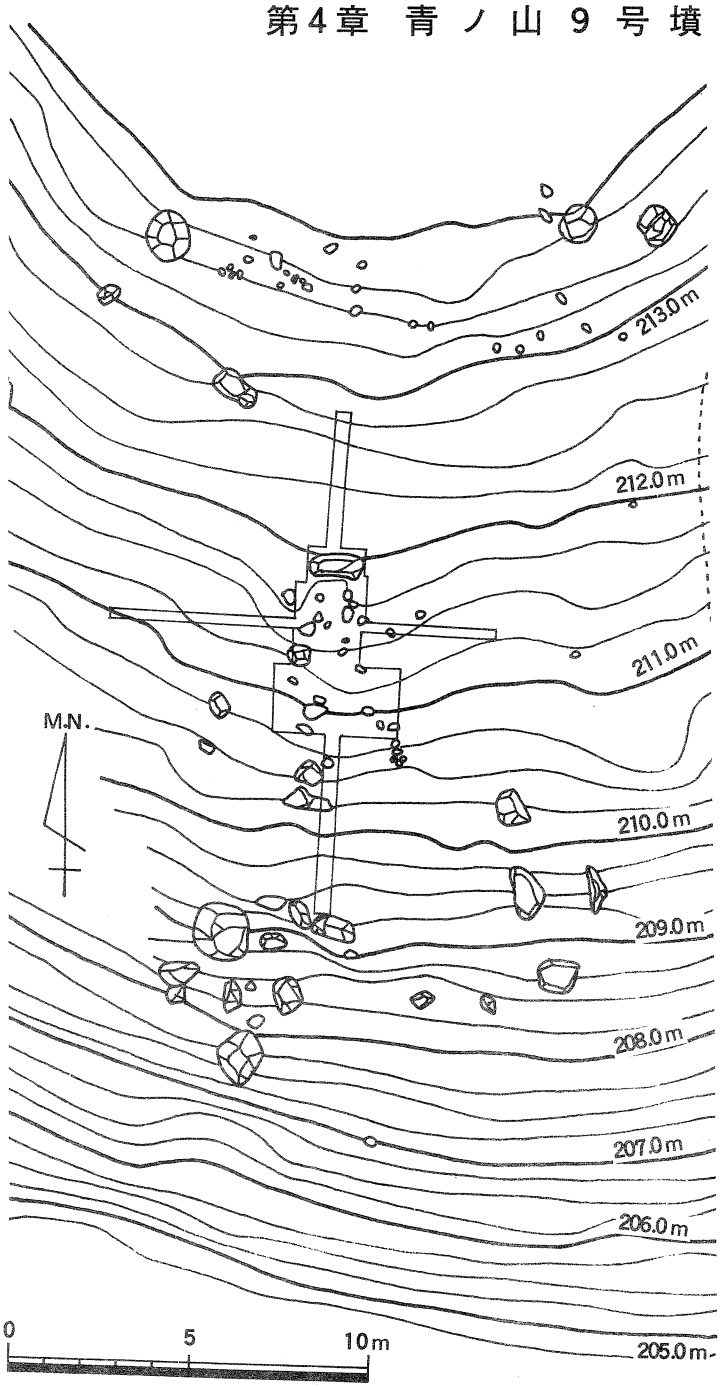
第3表　青ノ山8号墳出土須恵器観察表(No.1)

実測番号	図版番号	名称	出土地点	法量(cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
1		蓋杯(蓋)	前庭部	口径 14. 器高 4.0 (全て復原値)	器壁が薄い。口縁端部内側には稜線段が確認できる。	残存部はすべて回転ナデ調整。	ロクロ回転　方向不明 色調　内外面－淡灰色 胎土　1～2㎜の砂粒を若干含む 焼成　良 反転復原実測
2	24①	蓋杯(蓋)	玄室	口径 13.9 器高 4.1	器薄なためシャープでスマートである。口縁端部内側には段を有す。	天井部外面¾回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転　左方向 色調　内面－紫灰色 外面－青灰色 胎土　ほとんど砂粒は含まない 焼成　良好 杯身No.8とセット 天井部内面にヘラ描き模様
3	24②	蓋杯(蓋)	玄室	口径 14.1 器高 3.5	器高が低く、やや扁平な感がある。口縁端部内側には細く浅い沈線が走る。	天井部外面¾回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転　右方向 色調　内外面－青灰色 胎土　2㎜程度の砂粒をかなり含む 焼成　良 杯身No.9とセット 天井部外面に×のヘラ描き模様
4	24③	蓋杯(蓋)	玄室	口径 14.8 器高 4.2	天井部から口縁部にかけて全体的になだらかに下り、口縁端部は丸い。	天井部外面¾回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転　右方向 色調　内外面やや暗い灰青色 胎土　5㎜大の砂を若干含む 焼成　良
5	24④	蓋杯(蓋)	玄室及び玄門付近の羨道	口径 14.3 器高 2	口縁部は天井部に比して器壁が薄くなだらかに下るが、端部付近でやや内鬻する。	天井部外面¾回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転　右方向 色調　内外面－淡青灰色 胎土　2～3㎜大の砂粒を若干含む 焼成　良 杯身No.11とセット
6	24⑤	蓋杯(蓋)	玄門部付近の羨道	口径 14.4 器高 4.8	器壁が厚く、重量感がある。器高が高い。口縁部は八字形で端部は丸い。	天井部外面¾回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転　右方向 色調　内面－青灰色 外面－黄味おびた青灰色 胎土　1～2㎜程度の砂粒を若干含む 焼成　良 杯身No.12とセット
7	24⑥	蓋杯(蓋)	羨門付近	口径 14.4 器高 3.8	口縁部はやや内鬻しながら下がる。端部は丸くおさめるが、内側にはヘラ工具による細く鋭い沈線が走る。全体的に歪みがある。	天井部外面¾回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。口縁部の回転ナデ調整は粗いので、外面は波状を呈している。	ロクロ回転　右方向 色調　内外面－淡青灰色 胎土　1～2㎜の砂粒を若干含む 焼成　良
8	24⑦	蓋杯(身)	玄室	口径 12.4 器高 4.0 受部径 14.4 たりあがり高 0.9	器壁が薄く、精巧である。たちあがりは極めて薄く、外反ぎみに内傾する。内面のたちあがり基部にヘラ状工具で境をつける。受部はやや外上方にのびる。	底部外面¾回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転　左方向 色調　内面－紫灰色 外面－黄灰色 胎土　ほとんど砂粒は含まない 焼成　良好 杯蓋No.2とセット
9	24⑧	蓋杯(身)	羨門付近	口径 12.0 器高 3.8 受部径 14.7 たちあがり高 1.0	たちあがりは太く直線的で、内傾する。受部は短かく、水平ぎみにのびる。	底部外面¾回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転　右方向 色調　内面－青灰色 外面－灰青色 胎土　1～5㎜ 焼成　良 底部外面に×のヘラ描き模様 杯蓋No.3とセット
10	24⑨	蓋杯(身)	玄室	口径 13.1 器高 3.6 受部径 15.3 たちあがり高 0.8	たちあがりは短かく内傾する。受部は短かく水平で、端部は丸い。全体的に器壁が薄く、特に底部は薄い。器高が低いため扁平な感じがする。	底部外面¾回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。底部外面には自然釉がかかる。	ロクロ回転　右方向 色調　内面－灰色 外面－青灰色 胎土　2～3㎜の砂粒を含む 焼成　良
11	24⑩	蓋杯(身)	玄室	口径 12.4 器高 4.2 受部径 14.8 たちあがり高 1.2	たちあがりは比較的長く直線的　ある。受部は斜め上方へのびる。底部は丸みがあり深みを感じる。	底部外面¾回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転　右方向 色調　内面－灰色 外面－青灰色 胎土　2～3㎜の砂粒を若干含む 焼成　良 杯蓋No.5とセット
12		蓋杯(身)	前庭部	口径 13.0 器高 4.3 受部径 15.0 たちあがり高	全体的に器壁が厚く、重量感がある。たちあがりは内傾してのびるが端部で外反する。受部は太く短かく、水平に張	底部外面¾回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転　右方向 色調　内外面－青灰色 胎土　1～2㎜の砂流を若干含む

第４表　　青ノ山８号墳出土須恵器観察表（No.２）

実測番号	図版番号	名　称	出土地点	法量(cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
				1.1 （全て復原値）	り出す。		焼成　良 反転復原実測 杯蓋No.６とセットか
15	２５⑤	台付長頸壺	玄室	口径　8.9 器高　２６.５ 口頸部高　8.0 口頸基部径 5.8 体部径　１５.３ 台部高　8.0 台部底径　6.2	口頸部は直線的にのび、端部は丸味をもつ。口頸部中央やや上方と肩部には各々浅い凹線が一条めぐる。台部はハリツケによるもので、ラッパ状に大きく広がり、内端部で接地する。台部には、細長い長方形スカシを３方向に穿孔している。スカシ窓の中央と、下部には各々２条の凹線がめぐっている。台部の位置が長頸壺の中軸線とずれ、全体的にアンバランスを感じさせる。	体部外面⅓は回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転　右方向 色調　内外面－青灰色 胎土　２㎜程度の砂粒を若干含む 焼成　良 一部に自然釉がかかる
16	２５②	直口壺	玄室	口径　１３.４ 器高　１７.４	口頸部は外反気味にのびるが中央で内彎気味に屈曲する。端部は平担面が内傾し、その上部は鋭く尖がり、下部には突出した段を有する。底部はやや平担に仕上げている。胴部は広くふくらみなだらかである。	体部外面⅓は回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。底部外面には指頭圧痕が認められる。	ロクロ回転　左方向 色調　内外面－灰色 胎土　４㎜程度の砂粒を少し含む 焼成　やや不良
17	２５④	提瓶	玄室	口径　7.2 器径　２１.８ 基部径　5.2 体部径　１７.１ 体部厚さ１２.０	口頸部は比較的短かく、内彎ぎみに開き、端部は丸い。把手は退化し、カキ形の突起を呈する。	口頸部及びカギ形突起はハリツケによる。体部外面は全面に回転カキ目調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転　右方向 色調　内外面－灰色 胎土　１～５㎜の砂粒を含む 焼成　良
18	２５③	瓶	玄門部付近の羨道	口径　１３.３ 器高　１５.５ 基部径　4.0 体部最大径8.8 孔径　1.6	口頸部は基部が細く、ラッパ状に外反し、端部で段をなす。体部は球体を呈し、その最大径は⅔に求められる。円孔は最大径のやや上部にあり上外方から下内方に穿孔されている。	体部外面⅓は回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転　右方向 色調　内外面－青灰色 胎土　砂粒やや多く含む 焼成　良
19		瓶	前庭部	復原口径１２.０	No.18と同様な器形であると思われる。口頸部はラッパ状に外反し、端部で段を有している。	残存部はすべて回転ナデ調整。	ロクロ回転　方向不明 色調　内外面－淡灰色 胎土　砂粒はほとんど含まない 焼成　良 反転復原実測
20	２４⑪	有頸壺蓋	玄室及び東トレンチ	口径　１１.７ 器高　3.3	口縁部はやや平担な天井部から「く」字形にまがる。	天井部外面⅔回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転　右方向 色調　内外面－灰青色 胎土　１～２㎜の砂粒を含む 焼成　良
21	２６②	有蓋短頸壺	玄室	口径　8.6 器高　9.2 体部最大径 １５.６	口頸部は短く、内傾する。体部上位に強く張り出した肩を有す。	肩部から体部中位にかけて回転カキ目調整。底部外面⅓は回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。蓋をして焼成した痕跡あり。	ロクロ回転　右方向 色調　外面肩部－淡灰色 他は暗青灰色 胎土　３～４㎜大の砂粒を少し含む 焼成　良 体部外面に自然釉
22	２６①	有蓋短頸壺	玄室	口径　8.8 器高　8.5 体部最大径 １４.６	口頸部は短く、内傾する。体部上位にやや強く張り出した肩を有す。口縁端部の上面観は楕円形を呈し、焼き歪みを示している。	肩部から体部中位にかけて回転カキ目調整。底部外面⅓は回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転　右方向 色調　外面肩部－口頸部－ －淡灰色 他は暗青灰色 胎土　２～４㎜の砂粒を若干含む 焼成　良 外面全体に自然釉
23	２５①	無蓋短頸壺	玄門部付近の羨道	口径　8.8 器高　9.4 体部最大径 １２.５	口頸部は短く、やや外反する。肩はあまり張り出さず、底部に至る。	底部外面¼回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転　右方向 色調　淡黄灰色 胎土　１～２㎜の砂粒を若干含む 焼成　不良
24	２６③	有蓋短頸壺	玄室	口径　9.0 器高　9.5 体部最大径 １４.８	口頸部は非常に短く、直立する。体部上位にやや張り出した肩を有する。体部中位から下位にかけてはややふくらみを感じさせる。	底部外面¼回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。蓋をして焼成した痕跡有り。	ロクロ回転　右方向 色調　内外面－青灰色 胎土　１～４㎜の砂粒をやや多く含む 焼成　良 肩部に自然釉

第4章　青ノ山9号墳



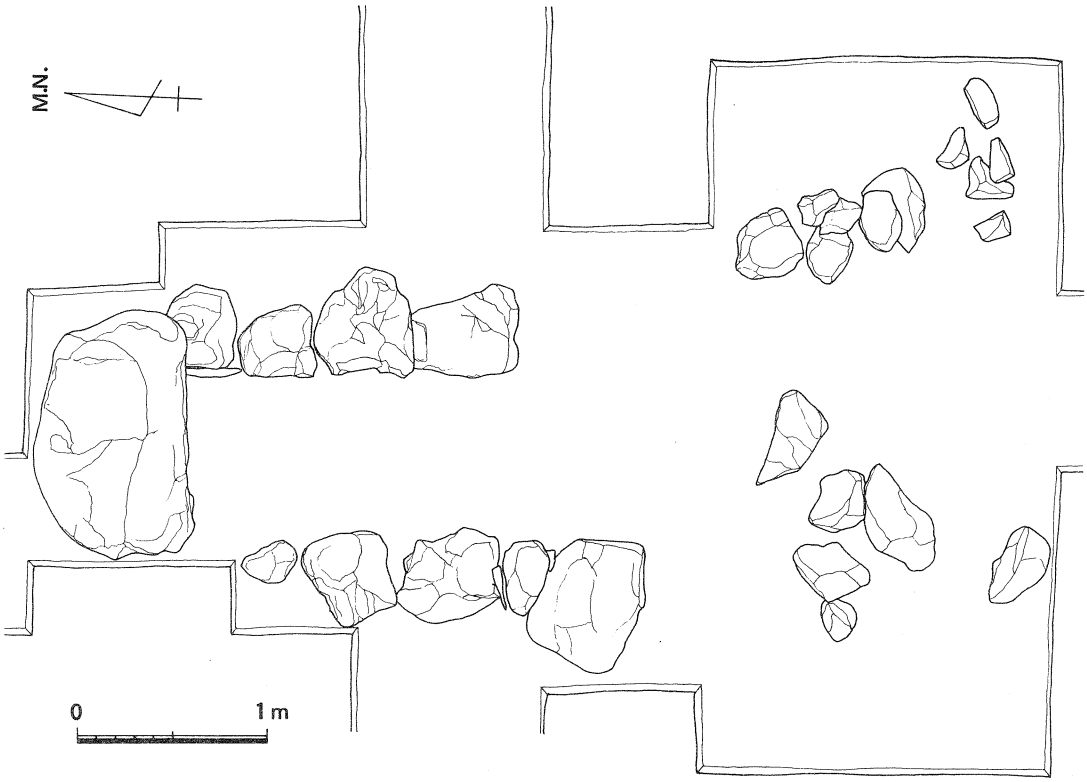
第17図　青ノ山9号墳地形測量図

青ノ山9号墳は青ノ山8号墳より南へ約40m下った尾根筋にあたる標高211mの緩斜面に築造されている。

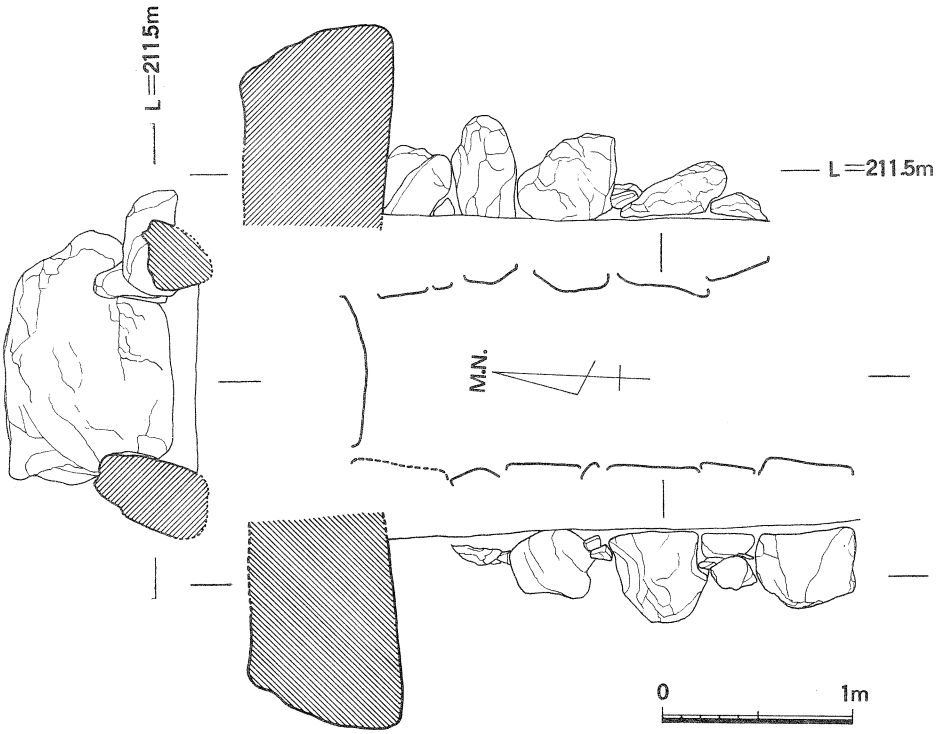
発掘調査前の地形観察では墳丘は西～南に僅かであるが残存している感があった。そのことは地形測量図でも窺える。しかしトレンチの土層観察からは確認できなかった。本来の墳丘盛土は完全に自然流失したと判断したい。このように墳丘は不明であるが，築造時の規模は石室規模などから10m程度であっただろうと推定する。

埋葬主体は横穴式石室である。石室の主軸は南北方向であり，開口方位は南である。現存する石室規模は玄室長2.6m，幅0.9m，羨道部は不明である。地山を断面L字形に掘削することにより古墳築造基盤を築いている。横1.4m，高さ0.85m，奥行き0.8mを計測する奥壁石はその最奥部へ安定感よく据えられている。側壁石は奥壁石を支えるように設置され，内面が直線になるように構築設計されている。側壁石は大きいものでも40cm程で比較的小さな安山岩が使用されているといえる。基底石だけの遺存のため上部の状況は不明である。床面は削平面を叩きしめただけで敷石等の特別工作はしていない。出土遺物は皆無である。

築造時期は出土遺物がないので明確でないが，石室規模，立地状況などから古墳時代終末期と推定している。



第18図　　青ノ山９号墳石室上面実測図



第19図　　青ノ山９号墳石室実測図

第5章　青ノ山に所在する古墳について

第20図　青ノ山所在の古墳

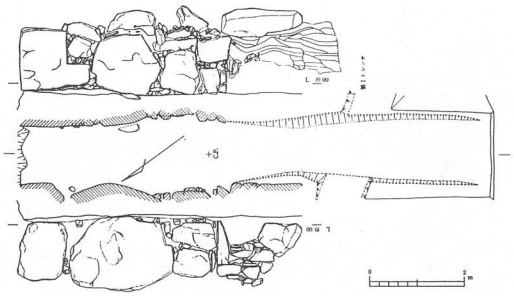
第５表　　青ノ山古墳群一覧表

古墳名	支群名		墳形（規模m）	標高（m）	開口方位	石室 (m) 全長	玄室 長さ×幅×高さ	羨道 長さ	石室平面プラン	築造時期	発掘調査の実施	副葬品	備考
青ノ山１号墳	山頂支群	１号	方墳（15）	２２０	南	6.0～	2.5×1.5×1.5	3.5	両袖	６Ｃ末		須恵器（杯、高杯）、金環、鉄釘	整備保存
青ノ山８号墳		２号	円墳（12）	２１７	西	6.5～	2.5×2.0×1.6～	4.0	片袖（Ｌ字形）	６Ｃ後半	昭和５７年度	須恵器（杯、短頸壺、直口壺、台付長頸壺、提瓶、甕）刀子、鉄鏃、金環、玉類（管玉、ガラス玉）	整備保存
青ノ山９号墳		３号	円墳（10）	２１１	南	－	2.0×1.0	－		終末期	昭和５７年度	なし	整備保存
青ノ山宇多津２号墳		４号	円墳（10）	２０９	南東	－	2.5×1.3×1.8			終末期			整備保存
		６号	円墳	２０２		－	3.0×1.0			終末期			Ｓ58発見 基底石石列が遺存
青ノ山宇多津５号墳		５号	円墳（10）	１９０	南	6.2～	3.2×1.2×1.3	3.0	無袖に近い両袖	７Ｃ中葉	昭和５７年度	須恵器（杯）、耳環、鉄釘、人骨（脛骨、上膊骨、大腿骨、頭蓋骨片、助骨片）	整備保存
青ノ山２号墳		７号	－	１５０		（2.85×0.5～0.7×0.65）			（堅穴）			須恵器（壺）、耳環、鉄釘	
宝塚古墳	宝塚支群	１号	円墳	５０						６Ｃ後半～末		須恵器（杯、長頸壺、平瓶）、鉄刀、刀子	石室側石の石列が遺存
		２号	円墳（25～30）	６８									墳頂と石室石材あり
		３号		６５					（箱式石棺）				石棺石材露呈（５石）
		４号	円墳	３８	西	6.6～	4.2×3.0	2.4				須恵器（杯、提瓶など）	
	西麓支群	１号		１３８	北	6.1～	3.3×2.4	2.8	片袖か？	６Ｃ末		土師器（高杯）	Ｓ58.発見 石室石材露呈
		２号		１１２	北	3.6～	2.2×1.3	2.3	片袖				Ｓ58.発見 石室露呈
		３号		１０								須恵器	
青ノ山３号墳	墓地公園西支群	１号	円墳（15）	１８						６Ｃ後半			側壁石、天井石が露出
青ノ山４号墳	南麓支群	４号	円墳（12）	２６	南南西		幅1.4			６Ｃ後半			
		３号	円墳	３０									Ｓ58.発見 ２石露呈
青ノ山５号墳		２号	円墳	３０	南南西	7.5～	3.5×1.6～1.7×1.7	4.0	両袖	６Ｃ後半			
青ノ山６号墳		１号	円墳（11）	５２	西南西	4.6～	2.2×1.4×1.5	2.4	片袖（Ｌ字形）	６Ｃ後半	昭和５１年度	須恵器（杯、短頸壺、広口壺、長頸壺、提瓶）、武具(太刀、鉄鏃）、馬具、玉類（管玉、ガラス玉）	整備保存
青ノ山７号墳	竜塚支群	１号	円墳（25）	５０	南西	9.5～	3.8～3.9×2.4×2.5	5.7	両袖	６Ｃ後半	昭和５４年度	須恵器（杯）、高杯、長頸壺、土師器甕、金環	消滅
青ノ山墓地公園東古墳	墓地公園東支群	１号	円墳	８８					（箱式石棺）	５Ｃ		ガラス玉４個	
	東麓支群	１号		２３					（箱式石棺）				消滅
吉岡神社古墳			前方後円墳(50)	３０						４Ｃ後半～末	昭和５６年度測量調査	筒形銅器、銅鏃、鉄剣、鉄鏃、刀子	

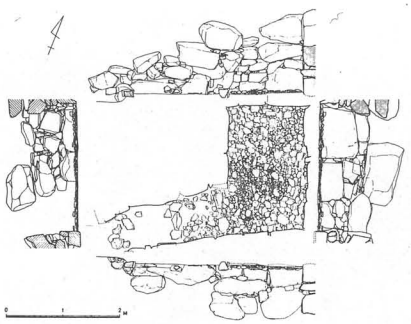
昭和58年３月現在，青ノ山は23基の古墳が確認され，青ノ山古墳群と呼ばれている。（第20図，第５表）。青ノ山古墳群のうち，大部分が横穴式石室を持つ後期～終末期の古墳である。墳丘径10～15ｍ，石室長６ｍ前後の円墳が主で概して小～中規模古墳群といえよう。

その中にあって青ノ山７号墳（竜塚古墳）は卓越している。青ノ山７号墳は土砂採取により消滅しているが，昭和54年度の調査概報[※6]によれば，墳丘径25ｍ，石室長9.6m以上である。十分に巨石墳の範疇で捉えることができる。新宮古墳（坂出市），椀貸塚，角塚，平塚（大野原町），久本古墳[※7]，山下古墳[※8]（高松市），中尾古墳[※9]（寒川町）など県内には巨石墳とよばれている古墳が19基，確認されている。それらは各地域の比較的低地に立地し，古墳群を伴っていない。７号墳の場合，青ノ山古墳群として捉えられる点は異色である。また近距離に青ノ山１号窯跡[※10]があり，所謂，大型横穴式石室を持つ古墳と窯跡の有機的関係として把握できる。

墓地公園付近には，７号墳以外に，墓地公園東古墳，青ノ山３～６号墳がある。墓地公園東古墳は箱式石棺で５世紀代の古墳とされている。青ノ山６号墳は，８号墳と同様のＬ字形石室を持つ古墳である。第６・７表は最近，発掘調査を実施した古墳を中心に県内の後期古墳の一部をまとめたものである。第38図は，それらの石室平面プラン模式図である。昭和58年３月現在，第６・７表以外の未発掘調査古墳をも含めて，県内においてＬ字形石室を持つ古墳は青ノ山所在の６号墳，８号墳の２基だけである。筆者が入手している情報内では，浦山５号墳[※11]のようなＴ字形石室の報告例は多いが，Ｌ字形石室例は全国的にもあ



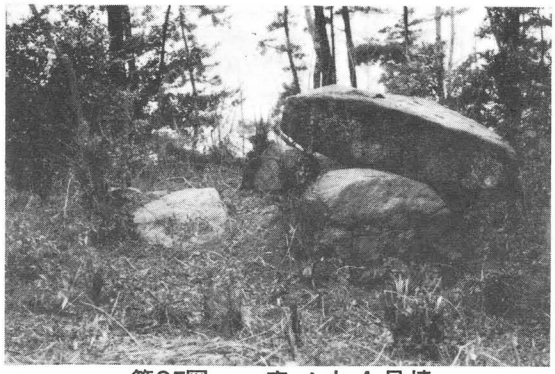
第21図　青ノ山７号墳石室実測図



第22図　青ノ山６号墳石室実測図

第23図　青ノ山６号墳

第24図　青ノ山３号墳



第25図　　青ノ山４号墳

第26図　　青ノ山５号墳

まりない。極めて特異な石室タイプであるといえる。なお６号墳，及び８号墳は石室平面プラン以外に，開口方位，副葬品，築造時期など類似点が多く，特異集団である豪族墓と考えることができる。青ノ山3,4,5号墳は，全て横穴式石室の石材が露呈している。５号墳西方の尾根先端平坦地にも花崗岩が２石露出しており，古墳の可能性がある。

青ノ山北西地域には宝塚古墳をはじめ４基の古墳が確認されているが，詳細は不明である。

青ノ山西麓中腹には，２基の古墳が存在する。それらは山頂へ至る林道を挟んで上下にあり，ともに石室石材が露呈し横穴式石室（片袖形？）の様相を呈している。

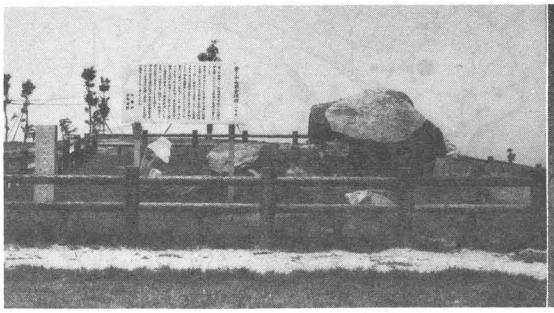
山頂付近には，本概報で報告した青ノ山8,9号墳以外に，青ノ山１号墳，青ノ山字多津

第27図　　青ノ山５号墳西方の古墳

第29図　　青ノ山西麓中腹の古墳（林道上）

第28図　　青ノ山北西地域に所在する古墳

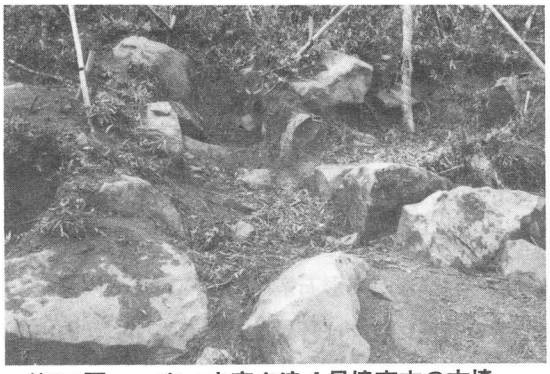
第30図　　青ノ山西麓中腹の古墳（林道下）



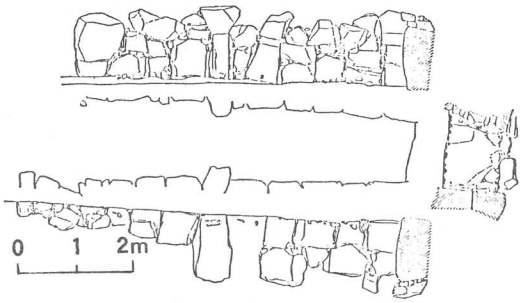
第31図　　青ノ山１号墳

第35図　　青ノ山２号墳

第32図　　青ノ山宇多津４号墳



第33図　　青ノ山宇多津４号墳東方の古墳

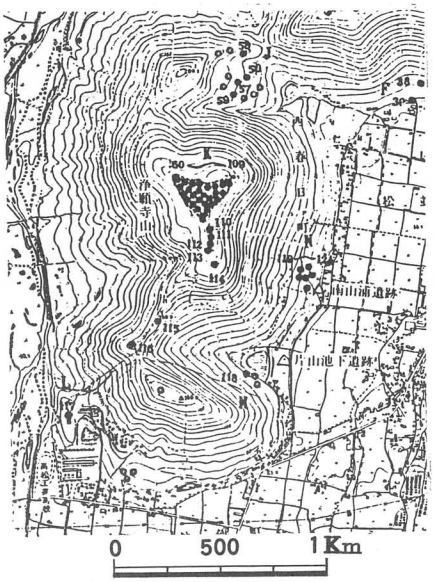


第34図　　青ノ山宇多津５号墳石室実測図

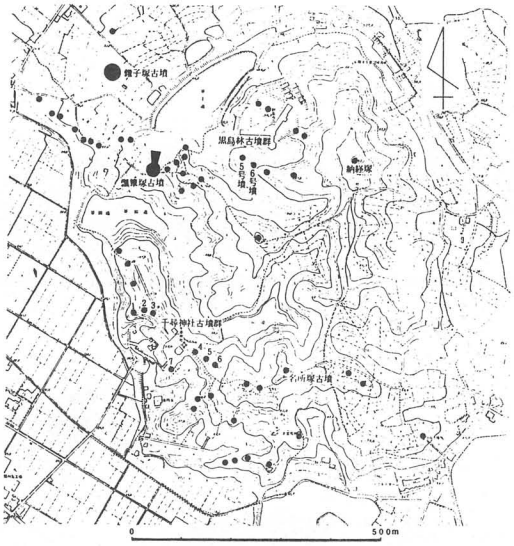
５号墳など総数７基が存在する。１号墳は一辺15mの方墳で，墳丘基底部に石列が認められる。主体部は南に開口する両袖形の横穴式石室で，玄室長2.5m，幅1.5m，高さ1.5m，羨道長3.5m以上を測る。未発掘調査古墳であるが，須恵器の杯，高杯，金環，鉄釘を出土している。築造時期は６世紀末頃と推定されている。１号墳は，青ノ山古墳群中，最高所（標高220ｍ）に立地するなど，青ノ山古墳群を代表する象徴的な古墳である。

青ノ山宇多津４号墳は，山頂駐車場から山頂へ至る遊歩道の右にあり，整備保存されている。最近，その東30mに横穴式石室を持つ古墳が１基発見された。昭和57年度に発掘調査された青ノ山宇多津５号墳[※12]は円墳(径10m)で横穴式石室を主体部とする。石室規模は玄室長3.2m，幅1.2m，羨道長3.0m以上で，無袖形に近い両袖形プランである。これら３基と本概報で報告した９号墳は標高190～211mに存在し，古墳時代終末期の築造という共通特徴を有している。それらの古墳から南斜面を下った標高約150ｍに青ノ山２号墳がある。埋葬主体部は竪穴式石室状を呈するが築造時期等の詳細は不明である。

以上，青ノ山古墳群を山裾から山頂へと順に羅列したが，平面的立地状況などから支群として捉える考え方がある。山頂支群（７基）



第36図　浄願寺山古墳群



第37図　母神山古墳群

宝塚支群（４基），西麓支群（３基），墓地公園西古墳群（１基），南麓支群（４基），竜塚支群（１基），墓地公園東支群（１基），東麓支群（１基）に区分できる。支群についての考え方は，今後，十分に検討しなければならないが一試案として掲載した。

最後に青ノ山古墳群としての特徴をまとめておく。青ノ山古墳群は，独立峰に山頂支群をはじめ８支群で形成されている。山頂立地例としては高松市浄願寺山古墳群[※13]がある。浄願寺山には約50基の古墳が標高 239.67 ｍの山頂部に群集している。全て横穴式石室を持つ円墳で６世紀後半～７世紀前半に築造されたものであると推定されている。両古墳群ともに，後期群集墳でありながら，山頂立地という立地上の特異性がある。

観音寺市母神山には４支群61基の古墳が確認されている。支群によっては玄室が胴張りで，二重敷石を持つ古墳が主流を占める。そのような特異な石室構造[※14]は，地域性或いは被葬者集団固有の型と推定する。青ノ山古墳群における６号墳，８号墳の特異なＬ字形石室構造についても同様のことがいえるのではないかと思われる。青ノ山6,8号墳の石室プランは特異な被葬者集団に起因するものと考えたい。

さらに浄願寺山古墳群には隣接地域に石船塚，猫塚，鶴尾神社４号墳[※15]などの前期古墳群である石清尾古墳群が，一方，母神山古墳群には，前方後円墳の瓢箪塚が存在し，それらは両古墳群形成に大きな影響を与えたことは明確である。青ノ山古墳群における前方後円墳である吉岡神社古墳の存在も同様な位置付けができよう。

青ノ山古墳群中，約半数がこの２～３年に発見されている。新たな発見と資料蓄積により青ノ山古墳群の全容も次第に浮きぼりにされるであろう。今後の調査，研究に期待したい。

第６表　古墳時代後期～終末期における古墳一覧表(No.１)

	古墳名	所在地	墳形(規模m)	立地(標高m)	開口方位	玄室		羨道		石室平面プラン	築造時期	副葬品、その他
						長 m	幅 m	長 m	幅 m			
1	川北1号墳	引田町	円	山上	東南東	3.8	1.4～1.6	4.0～	1.2	両袖	6C末	須恵器(杯、高杯、短頸壺、提瓶、平瓶)
2	原間古墳	大内町	円(12～13)	屋根裾部(31)		3.8～4.0	2.06～2.14	2.5～	1.14	左片袖	6C後半	
3	藤井古墳	白鳥町	円									
4	大末3号墳	寒川町	円(12)	緩やかな尾根稜線上		2.36	1.42～1.6	2.05	0.96～1.04	両袖	6C末	須恵器(杯、提瓶、直口壺、横瓶、高杯)、耳環、鉄鏃、刀子
5	大末4号墳	〃	円(11)	〃		2.58	0.92～1.18	1.08	0.84	両袖	6C末	須恵器(杯、提瓶、短頸壺)
6	奥12号墳	〃	円(6～8)	尾根稜線鞍部(85)		3.0	1.15	3.0	1.15	無袖に近い両袖		須恵器、鉄鏃、馬具
7	奥15号墳	〃	円	尾根先端近く(70)		2.2	1.3		0.8～1.0	左片袖		須恵器(杯、壺、提瓶)鉄剣、馬具、金環、玉類(管玉、切子玉、勾玉)
8	奥16号墳	〃	円	尾根先端(55)		2.15	0.9	1.6	0.6～0.8	右片袖		須恵器(杯、壺など)馬具、鉄鏃、刀子など
9	中尾古墳	〃	円(20～)	緩やかな尾根先端(48)	南	5.2	2.8～3.0	4.8	1.9	両袖	6C末	須恵器(高杯、杯、甕、壺)ガラス小玉、鉄刀？
10	緑ケ丘古墳	長尾町	円(12～13)	尾根先端		3.2	1.9	3.4	0.8	右片袖	6C後半	須恵器(杯、高杯、提瓶、聰、短頸坩、甕)、鉄鏃、刀子、銀環、銅環、玉類(ガラス玉)
11	陰浦1号墳	〃	円(5～6)	尾根東斜面(65)	南南東	2.4	0.6～0.75	1.8	0.96	無袖	終末期	須恵器(杯、長頸壺)、土師器
12	陰浦2号墳	〃	円	〃	南東	3.0	0.8			右片袖	終末期	須恵器(杯、高杯、平瓶)、土師器、金環、刀子
13	前山1号墳	〃	－	丘陵斜面(116)	南南東	2.76	1.2	2.5	1.1	両袖	終末期	須恵器(杯)、鉄釘
14	西土居2号墳	三木町	円(10)	緩やかな尾根(75)		(箱式石棺　長2.6m　小口幅0.56m，0.63m)						須恵器(杯、短頸壺、甕)、鉄斧、のみ、刀子、鉄鏃、金具、玉類(管玉、切子玉、臼玉、ガラス玉、そろばん玉)
15	西土居6号墳	〃		〃 (80)	西南西	2.0	0.8	1.2～	0.6	右片袖		須恵器(杯、提瓶)
16	石塚2号墳	〃		谷に面する南斜面(104)	南南東	2.5	1.0	－	－	無袖	終末期	
17	勝負谷1号墳	〃		丘陵台状部(102)	南南東	3.4	1.8	－	－	両袖	終末期	須恵器(杯)
18	中山田4号墳	高松市		丘陵先端部	東南東	4.2	1.9	4.5～	1.9	両袖	7C	須恵器(杯、高杯、小型台付長頸壺)
19	平木1号墳	〃		丘陵南斜面	南					両袖	7C前半	
20	平木2号墳	〃		〃	南	3.0	1.28～1.48	2.6～	1.36	両袖	7C前半	須恵器(小型長頸壺、大型長頸壺、平瓶、中型甕)、鉄釘
21	久本古墳	〃	円(20～)	水田中(15)	南	4.6	2.7	5.2～	2.2	両袖	6C末	須恵器(杯、高杯、長頸壺、短頸壺、提瓶、平瓶、横瓶)、鉄鏃、刀子、承台付銅腕など
22	山下古墳	〃	－	丘陵(22.5)	南	5.05	2.55～2.85	4.0	1.5	両袖	6C後半	
23	八王子古墳	香川町	円	丘陵西端(70)	西	3.2	1.7	1.3	1.0	右片袖	終末期	須恵器(杯、高杯、提瓶)、耳環、玉類(切子玉、ガラス玉)
24	万塚古墳	〃	円(12)	丘陵先端		2.5	1.75	75	1.	左片袖	終末期	須恵器(杯、高杯、坩、平瓶、提瓶、長頸坩)、金環、玉類(ガラス玉)、鉄刀、鉄鎌、鏃
25	城所山2号墳	香南町	円	尾根先端(126)	西	3.3	1.5	－	－	左片袖	6C後半	須恵器(杯、提瓶など)、耳環、玉類、鉄鏃、刀子
26	神懸古墳	坂出市	円	尾根先端		3.5	1.1	2.5	1.0	無袖に近い両袖	7C初	須恵器(杯、高杯、坩、聰、長頸壺、平瓶)、金環、鉄釘

第７表　古墳時代後期～終末期における古墳一覧表(No.２)

	古墳名	所在地	墳形(規模m)	立地(標高m)	開口方位	玄室 長m	玄室 幅m	羨道 長m	羨道 幅m	石室平面プラン	築造時期	副葬品、その他
27	真伏古墳	坂出市	円(10.5)	城山西麓	南西	2.8	2.0	3.5	1.0	右片袖	6C後半～	須恵器(杯、高杯、提瓶、短頸壺)土師器(壺、鉢)銀環、玉類(棗玉、切子玉、管玉、空玉、ガラス玉)鉄剣、鉄鏃、刀子、馬具
28	新宮古墳	〃	円(20)	尾根突端(30)		5.5	2.2～2.5	4.5	0.8～1.8	両袖		
29	サギノクチ1号墳	〃		山裾西斜面	南	3.8	1.3～1.8	－	－	両袖		
30	タテハ山1号墳	〃		タテハ山の西斜面		2.0	1.5	－	－	－		
31	浦山5号墳	綾南町	円(14)	丘陵	南南西	1.6	2.0	2.0	0.7	両袖		須恵器(杯、高杯、壺、長頸壺、広口壺、提瓶、瓿)鉄製品、玉類(管玉、勾玉、ガラス玉)
32	岡田井4号墳	〃	円(10)	台地先端(42～44)	南東	2.0	1.8	4.0	0.6～0.9	右片袖	6C末	須恵器(杯、壺、坩、提瓶)土師器、金環、鉄鏃、鉄斧、玉類(管玉、丸玉)
33	青ノ山宇多津5号墳	宇多津町	円(12)	山頂近く東斜面(188)	南	3.8	1.2	4.2	1.35	無袖に近い両袖	終末期	須恵器(杯)銀環、鉄釘
34	青ノ山6号墳	丸亀市	円(11)	丘陵状尾根(52)	西南西	2.2	1.3～1.4	2.4	0.7～0.85	左片袖(L字形)	6C後半	須恵器(杯、短頸壺、広口壺、長頸壺、提瓶)太刀、鉄鏃、馬具、玉類(管玉、平玉、ガラス玉)
35	青ノ山8号墳	〃	円(15)	山頂近く(217)	西	2.1	1.5	4.0	1.0	左片袖(L字形)	6C後半	須恵器(杯、短頸壺、直口壺、台付長頸壺、提瓶、甕、瓿)鉄鏃、玉類(管玉、ガラス玉)、金環
36	青ノ山9号墳	〃	円(12)	〃(211)	南	2.0	1.0	－	－	無袖？	終末期	－
37	岡1号墳	善通寺市	円		南南東	3.6	2.0	3.7	1.3	両袖		－
38	宮が尾古墳	〃		丘陵先端		3.4	1.9～2.3	3.7	1.3～1.7	両袖	6C後半	須恵器(杯、高杯)刀子、耳環
39	王墓山古墳	〃	前方後円墳	独立小山塊(48)	南南東	3.0	1.8	4.5	0.75	両袖	6C中葉	須恵器(器台、脚台付子持ち壺、長頸広口壺、瓿、提瓶、横瓶、高杯、杯、壺)馬具、鉄刀、鉄鏃、金環、銀環、金銅製冠帽、玉類(勾玉、管玉、空玉、丸玉、切子玉、棗玉)
40	山辺古墳	山本町	円(10)	丘陵尾根先端(48)	南南西	2.6	1.2～1.5	－	－	－	終末期	恵器(杯)銀環
41	黒島林1号墳	観音寺市	円(20)	尾根(62)	西南	3.6	1.55～1.8	2.2	1.3～1.35	両袖	6C末	須恵器(杯、高杯、提瓶、台付直口瓶、壺、横瓶)鉄刀、刀子、鉄鏃、鉄鎌、金環、銀環、紡錘車、馬具
42	黒島林5号墳	〃	円(15～16)	尾根先端(56)	南西	3.4	1.6～1.9	2.2～	－	両袖	6C末	須恵器(杯、高杯、短頸壺、高台付壺、高台付盤、甕)耳環、玉類(トンボ玉、ガラス玉)
43	黒島林6号墳	〃	円(11)	5号墳の上方25m	南西	3.05	1.4～1.8	3.1	0.95	両袖	6C末	須恵器(杯、高杯、短頸壺、壺、提瓶)土師器(壺、盤)鉄のみ、鉄斧、鉄鎌、紡錘車、玉類、馬具、鉄鉾、鉄刀、刀子、鉄鏃、耳環
44	黒島林7号墳	〃	円	6号墳の上方27m(64)	南西	2.6	1.6～1.8	2.4～	1.0	両袖		須恵器、鉄製品、耳環、玉類(ガラス玉、土玉)
45	黒島林8号墳	〃	円	7号墳の上方(69)	南南西	3.4	1.4～1.6	2.0	1.0	片袖		須恵器、鉄刀、鉄鏃、馬具、耳環、玉類(ガラス玉、土玉)
46	上母神4号墳	〃	円(11.6)		西南西	2.0	1.2～1.45	2.55	0.8	右片袖		須恵器(杯、高杯、提瓶、壺、甕)鉄鏃、鉄刀、鉄斧、鉄鎌、刀子、耳環、玉類(管玉、ガラス玉)
47	母神山古墳群千尋支群第1号	〃	円(8)	小尾根(45)		2.6	2.0	－	－	－	7C	須恵器(平瓶、提瓶)金銅環、鉄製品(直刀、刀子、鉄鏃、鎌)玉類(切子玉など)
48	〃 〃 第4号	〃	円(16)	尾根	北東	3.75	1.55～1.6	2.6	0.75	左片袖	6C末	須恵器(高杯、瓿)土師器(高杯、耳杯)鉄製品(鉄鏃、刀子、鉄斧、鉄鎌)馬具、腕輪、玉類
49	〃 〃 第5号	〃	円	尾根	北東	3.1	1.1～1.15	1.46	0.65	左片袖	6C後半	須恵器(杯、高杯、器台、提瓶、甕)鉄製品(直刀、鉄鏃、刀子、鉄鎌、鉄鋤)玉類(勾玉、管玉)
50	〃 〃 第6号	〃	円(12)	尾根(57)	北東	2.7	1.4	1.5	0.8	左片袖	6C前半	須恵器(杯、台付直口壺)鉄製品(鉄鏃、刀子、鉄鋤)玉類(管玉、ガラス玉)
51	角塚	大野原町	方墳(30m?)	水田中	南	4.36～4.52	2.5～2.6	4.6～	2.1	両袖		須恵器、鉄釘
52	喜兵衛島6号墳	直島町	円		南	3.2	1.7	2.2～	1.4	右片袖	6C末	須恵器、釣針、製塩土器

第38図　石室平面プラン模式図一覧

第6章　ま　と　め

〈青ノ山8号墳〉

1. 本墳は標高217ｍの緩斜面に立地する直径12ｍの円墳である。
2. 横穴式石室を埋葬主体とする古墳時代後期（６世紀後半）の古墳である。
3. 特異なＬ字形石室は稀で，県内では青ノ山６号墳と本墳の２基だけである。
4. 玄室には棺台と推定される石材が６個遺存している。
5. 玄室と羨道の境には仕切石があり，副葬品の多くがその周辺に集中している。
6. 副葬品は須恵器，土師器，装身具類（耳環，管玉，ガラス玉），武具類（刀子，鉄鏃）であり，馬具類，農工具類は出土していない。
7. ６号墳の被葬者とは，石室プラン，副葬品などの特徴比較から同一集団系と推定する。

〈青ノ山9号墳〉

1. 本項は標高211ｍの南斜面に築造された古墳である。
2. 墳丘は不明確であるが，10ｍ程度の円墳であろうと推定している。
3. 横穴式石室を埋葬主体とするが，石室形態は不明である。
4. 石室床面は，削平面を叩きしめるだけのものである。
5. 自然崩壊か，人為的破壊か定かでないが，いずれにしても破損の進行した古墳である。
6. 出土遺物は皆無である。
7. 築造時期は石室規模などから古墳時代終末期と考える。

引用文献・参考文献

1. 高橋　護「弥生土器ー山陽 1.2.3.ー」『考古学ジャーナル』173　175. 179.　1980　ニュー・サイエンス社
2. 小林行雄・佐原　真『紫雲出』　昭和39年９月　真陽社
3. 間壁忠彦「高地性集落の謎」『古代の日本ー4.中国・四国』　昭和45年３月　角川書店
4. 松本敏三ほか『青ノ山６号墳調査報告』　1977　香川県教育委員会・丸亀市教育委員会
5. 松本豊胤・松本敏三ほか『母神山古墳群千尋支群第 1. 4. 5. 6 号墳発掘調査概要』　1973　観音寺市教育委員会
6. 伊沢肇一・真鍋昌宏ほか「青ノ山７号墳」『青ノ山南麓における埋蔵文化財調査概報』　1980　丸亀市教育委員会
7. 松本敏三「久本古墳」『教育香川』
8. 大山真充・藤好史郎ほか『高松市・山下古墳調査報告』　1977　香川県教育委員会
9. 東原輝明『中尾古墳発掘調査報告』　1983　寒川町教育委員会
10. 伊沢肇一・竹下和男ほか「青ノ山１号窯」『青ノ山南麓における埋蔵文化財調査概報』　1980　丸亀市教育委員会
11. 松本豊胤ほか「浦山古墳群調査概報」『香川県文化財調査報告』第10号　1969　香川県教育委員会
12. 森本義臣『青ノ山宇多津５号墳調査報告』　1983　宇多津町教育委員会
13. 高松市教育委員会『石清尾山塊古墳群調査報告』　1973
14. 石川　巌ほか『母神山黒島林１号古墳群調査報告』　1967　観音寺市文化財保護委員会
    秋山　忠・松本敏三ほか『黒島林第 5. 6 号墳調査報告』　1977　黒島林古墳群発掘調査団
    沢井静芳・真鍋昌宏『上母神第４号墳発掘調査報告書』　1978　上母神古墳群発掘調査団
    斉藤賢一「黒島林７号．８号墳」『香川県埋蔵文化財調査年報』　1982　香川県教育委員会
15. 渡部明夫『鶴尾神社４号墳調査報告書』　1983　高松市教育委員会

古墳時代後期～終末期における古墳一覧表（第 6. 7 表）作成における参考文献

1. 丹羽佑一「大川郡引田町川北１号墳」『香川考古』創刊号　1983　香川考古刊行会
2. 藤好史郎「原間古墳」（文化財普及活動用資料）
3. （筆者　略測）

4.5 渡部明夫ほか「大末古墳」『香川県埋蔵文化財調査年報』　1981　香川県教育委員会

6.7.8 松本敏三ほか『雨滝山遺跡群』　大日本ゴルフ観光株式会社ゴルフ建設用地内埋蔵文化財第２次調査概報　1973

9. 東原輝明『中尾古墳発掘調査報告書』　1983　寒川町教育委員会
10. 緑が丘古墳　見学のしおり（現地説明会パンフ）　1975　緑が丘古墳発掘調査団

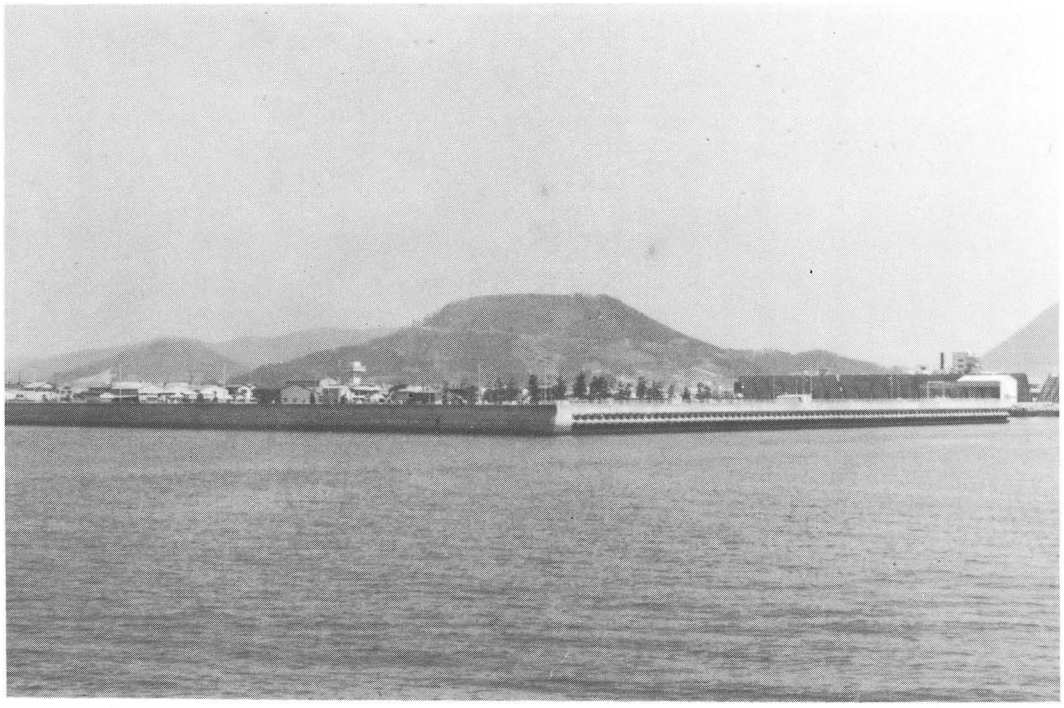
11.12 伊沢肇一・六車　功「長尾町陰浦１号墳、陰浦２号墳発掘調査報告」『ふるさと長尾』第３号　1979　長尾町教育委員会

13. 渡部明夫ほか『前山古墳群調査報告』　1981　長尾町教育委員会
14. 渡部明夫ほか『西土居古墳群』　1983　西土居古墳群発掘調査団

16.17 松本豊胤・松本敏三ほか『高松グランドカントリー建設工事に伴う埋蔵文化財調査報告書』　1974　高松グランドカントリー建設工事に伴う埋蔵文化財調査団

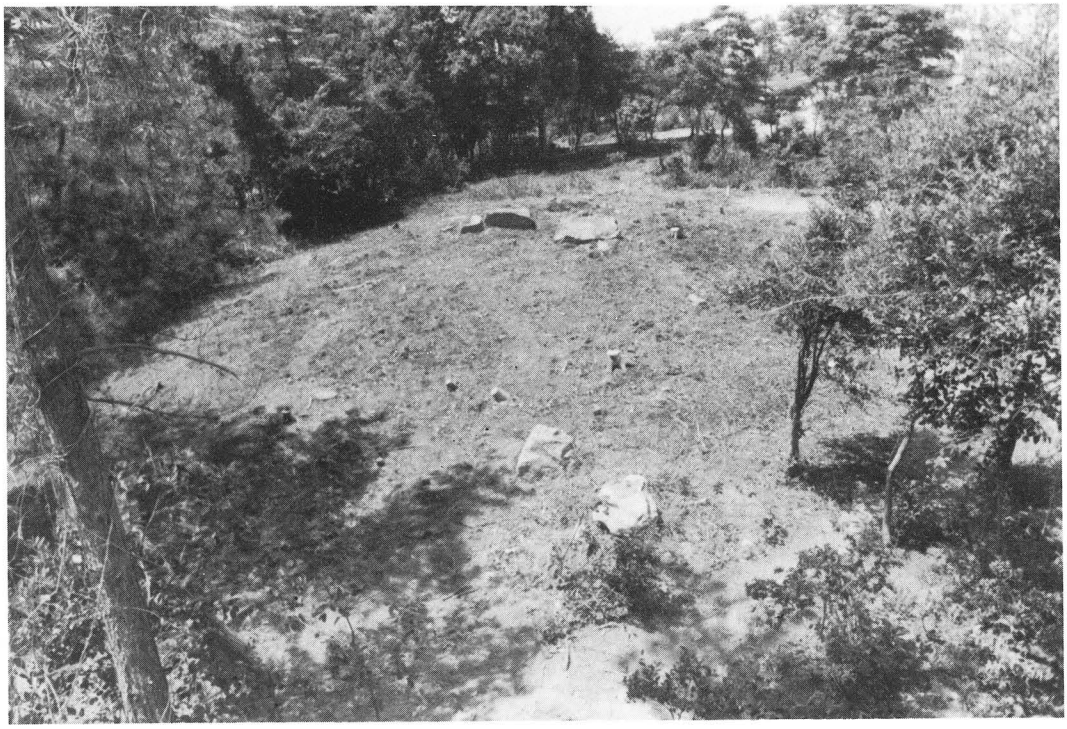
18. 六車　功「中山田遺跡を尋ねて」『教育香川』
19.20. 香川大学教育学部歴史学研究室　平木２号墳現地説明会資料　1983
21. 松本敏三「久本古墳」『教育香川』
22. 大山真充・藤好史郎ほか『高松市・山下古墳調査報告』　1977　香川県教育委員会
23. 井上勝之・中原耕男ほか「香川県浅野八王子古墳調査報告」『文化財協会報』第58号　1973
香川県文化財保護協会
24. 中原耕男『万塚古墳発掘調査報告』　1970　香川町教育委員会
25. 香南町教育委員会「城所山遺跡」（文化財普及活動用資料）
26. 高橋邦彦「神懸古墳の調査を終えて」『文化財協会報』第42号　1965　香川県文化財保護協会
27. 広瀬常男・六車　功「真伏古墳」『香川県埋蔵文化財調査年報』　1979　香川県教育委員会
28. 『新編　香川叢書　考古編』　1983　香川県教育委員会
29. 井上勝之・玉城一枝「坂出市加茂町木の葉塚（サギノクチ１号墳）の線刻壁画」『古代研究』第92号
30. 『新編　香川叢書　考古篇』　1983　香川県教育委員会
31. 松本豊胤ほか「浦山古墳群調査概報」『香川県文化財調査報告』第10号　1969　香川県教育委員会
32. 西谷れい子「綾南町岡田井古墳の調査から」『文化財協会報』　香川県文化財保護協会
33. 森本義臣『青ノ山宇多津５号古墳調査報告』　1983　宇多津町教育委員会
34. 松本敏三ほか『青ノ山６号墳調査報告』　1977　香川県教育委員会・丸亀市教育委員会
35.36. 本　書
37. 『新編　香川叢書　考古篇』　1983　香川県教育委員会
38. 松本豊胤『香川県宮が尾絵画古墳調査概要』「古代学研究」第45号　1966
39. 森本義臣・東原輝明ほか『王墓山古墳調査概報』　1983　善通寺市教育委員会
40. 寒川知治「山辺古墳」『香川県埋蔵文化財調査年報』　1980　香川県教育委員会
41. 石川　巌ほか『母神山黒島林１号古墳群調査報告』　1967　観音寺市文化財保護委員会
42.43. 秋山　忠・松本敏三ほか『黒島林第5.6号墳調査報告』　1977　黒島林古墳群発掘調査団
44.45. 斉藤賢一「黒島林７号、８号墳」『香川県埋蔵文化財調査年報』　1982　香川県教育委員会
46. 沢井静芳・真鍋昌宏『上母神第４号墳発掘調査報告書』　1978　上母神古墳群発掘調査団
47.48.49.50. 松本豊胤・松本敏三ほか『母神山古墳群千尋支群第1.4.5.6号墳発掘調査概要』
「観音寺市文化財調査報告」第３号　1973　観音寺市教育委員会
51. 藤好史郎・玉城一枝ほか「三豊郡大野原町所在の角塚古墳」『香川考古』創刊号　1983
香川考古刊行会
52. 『新編　香川叢書　考古篇』　1983　香川県教育委員会

図　　版



図版１　　青ノ山遠景（海より）

図版２　　青ノ山遠景（南東より）



図版３　　青ノ山８号墳墳丘（調査前）

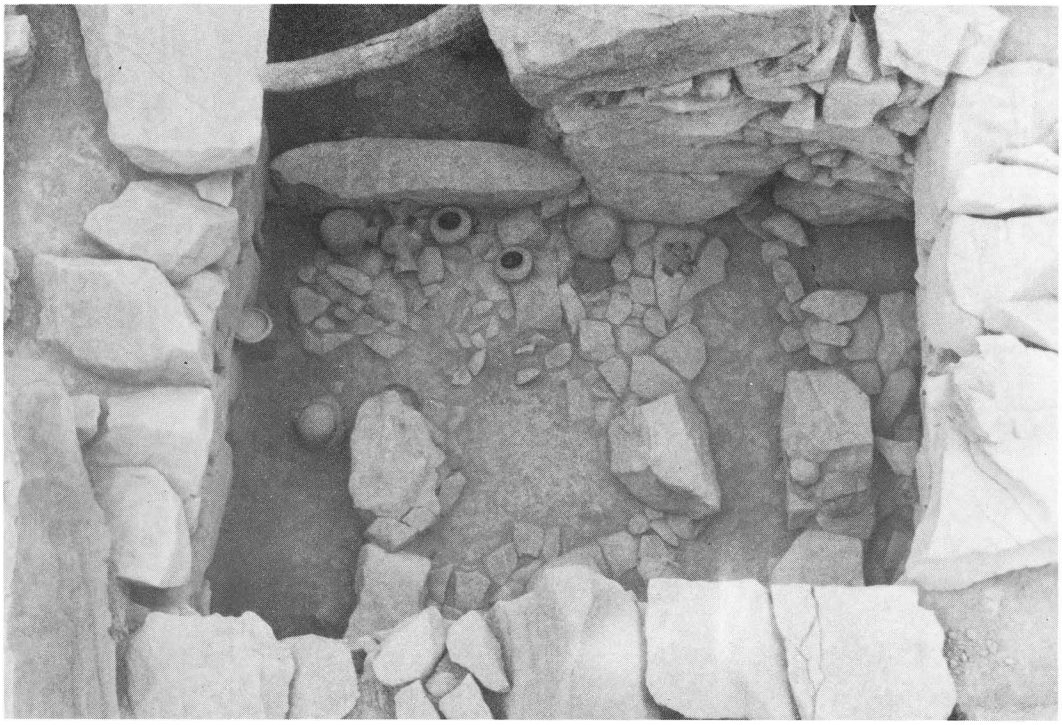
図版４　　青ノ山８号墳墳頂（調査前）

図版５　　青ノ山８号墳石室上面検出状況（北より）

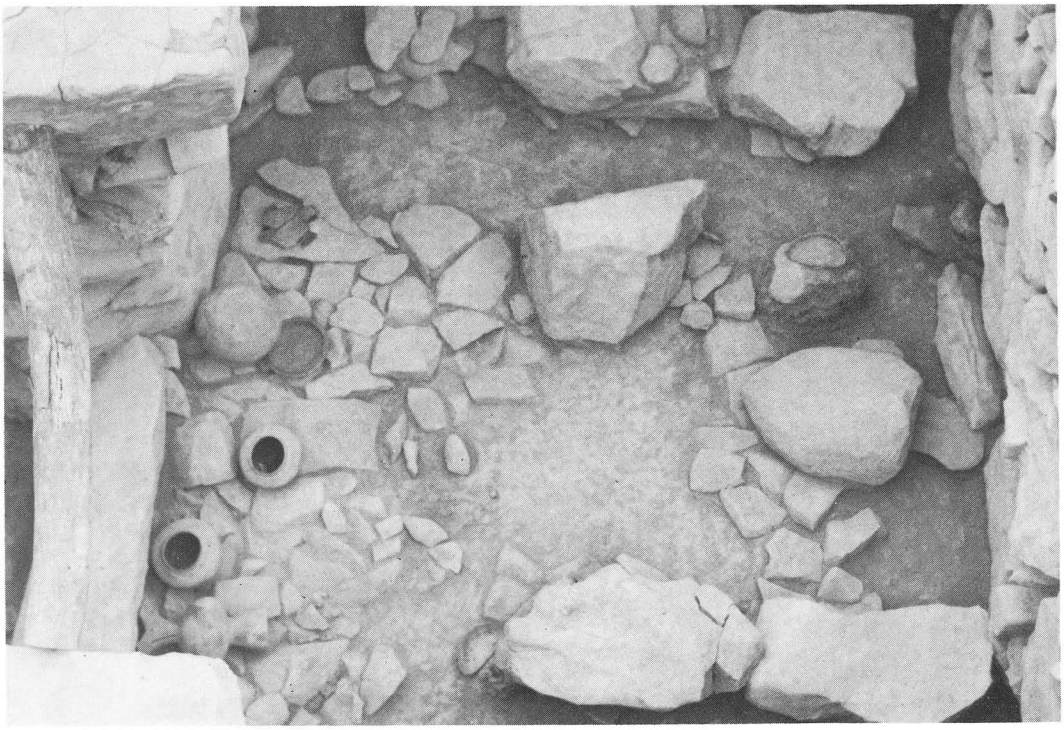
図版６　　青ノ山８号墳石室上面検出状況（東より）

図版７　　青ノ山８号墳石室全景（北より）

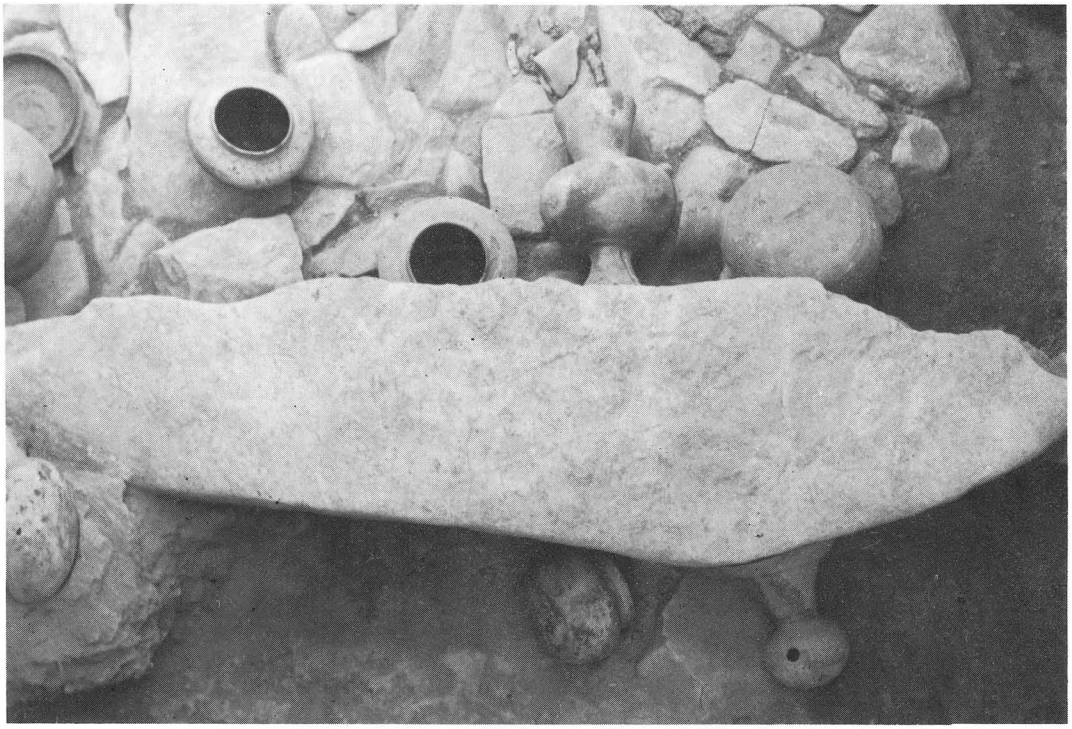
図版８　　青ノ山８号墳玄室（西より）



図版９　　青ノ山８号墳玄室（東より）



図版１０　青ノ山８号墳玄室（南より）

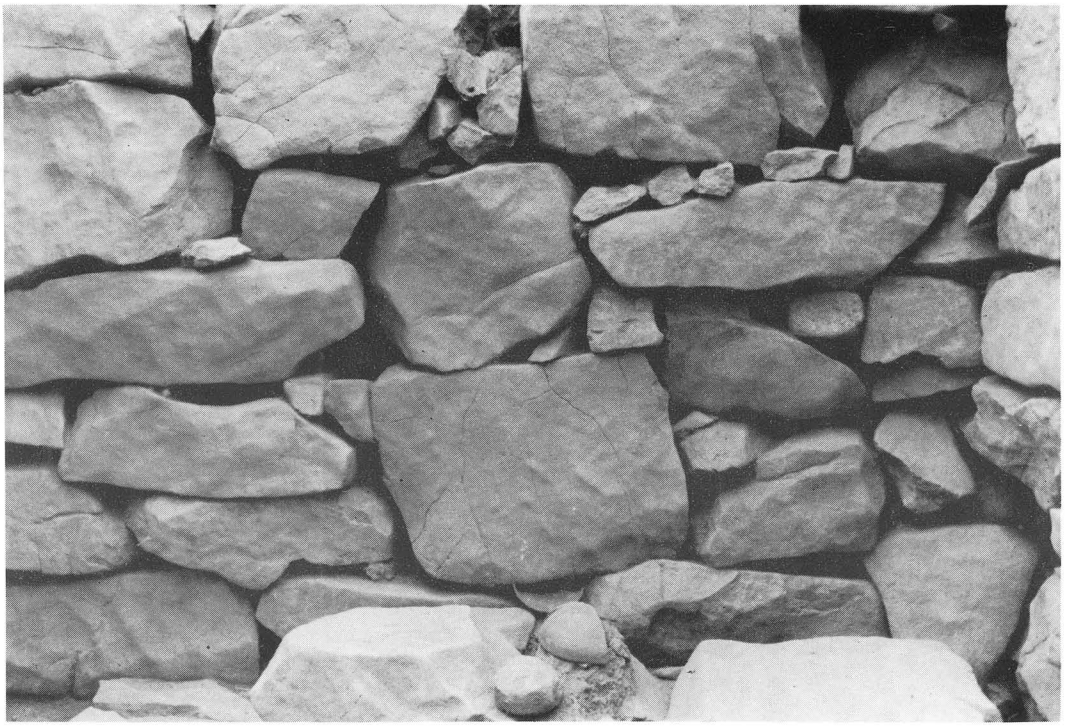


図版11　青ノ山8号墳仕切石周辺状況

図版12　青ノ山8号墳羨道(玄室より)

図版13　青ノ山8号墳羨道(羨道中央より玄室をのぞむ)

図版14　青ノ山8号墳玄室東壁



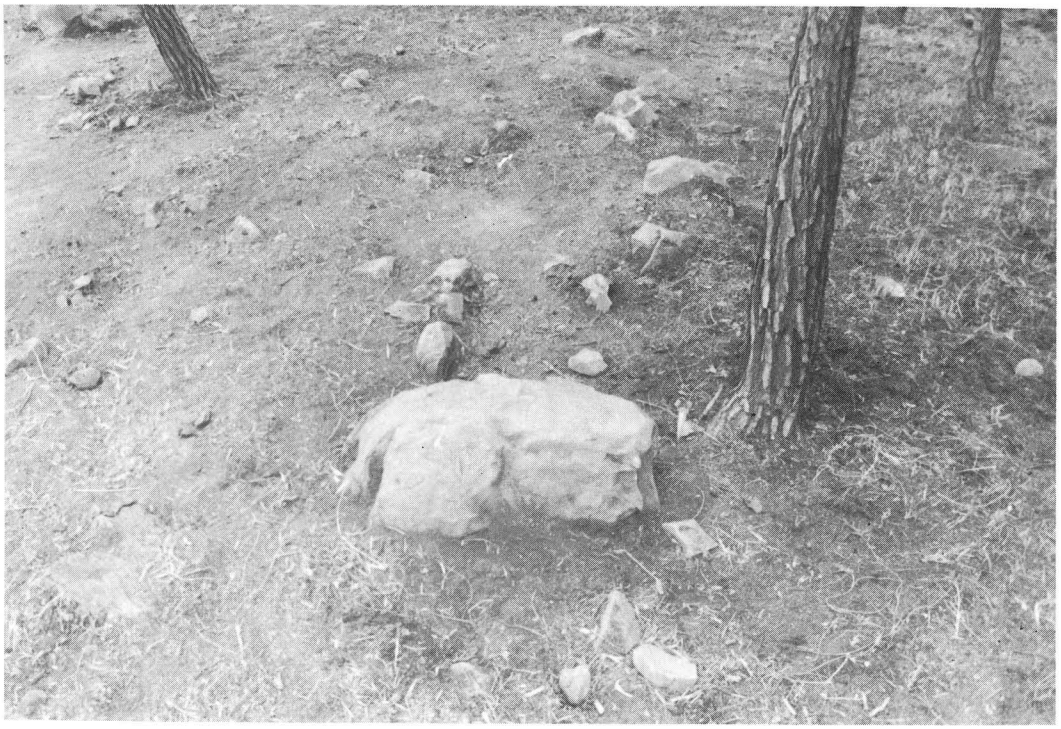
図版15　青ノ山8号墳玄室北壁

図版16　青ノ山8号墳玄室南東隅

図版17　青ノ山8号墳東トレンチ北壁

図版18　青ノ山8号墳全景(周溝の一部、検出状況)

図版19　青ノ山9号墳伐開前（東より）

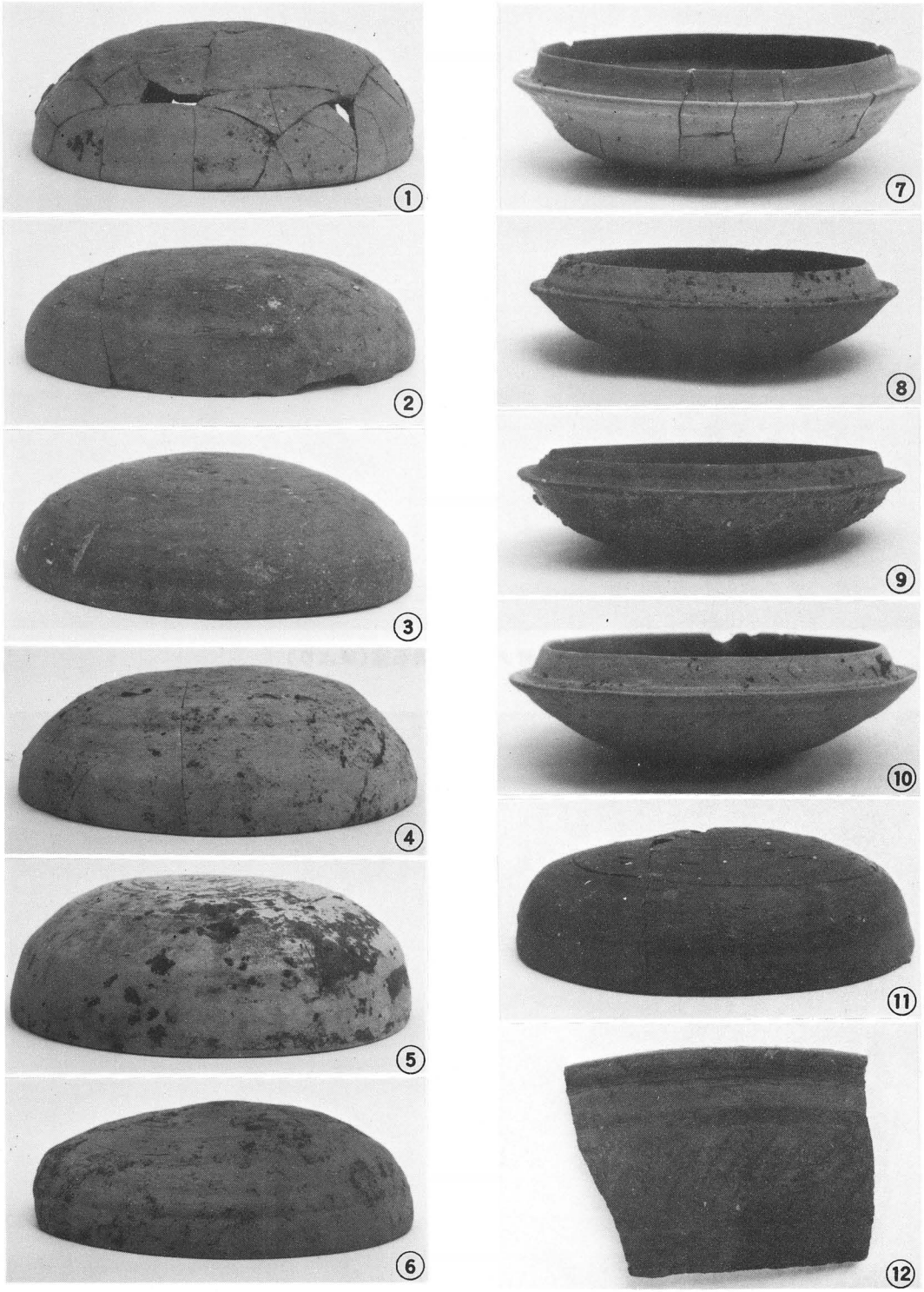


図版20　青ノ山9号墳伐開後（北より）

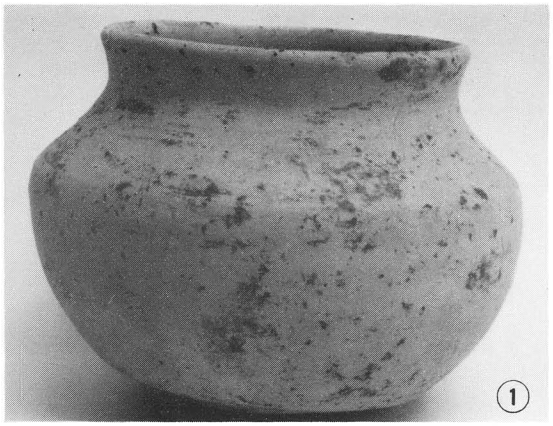
図版21　青ノ山9号墳石室(東より)

図版22　青ノ山9号墳石室(南より)

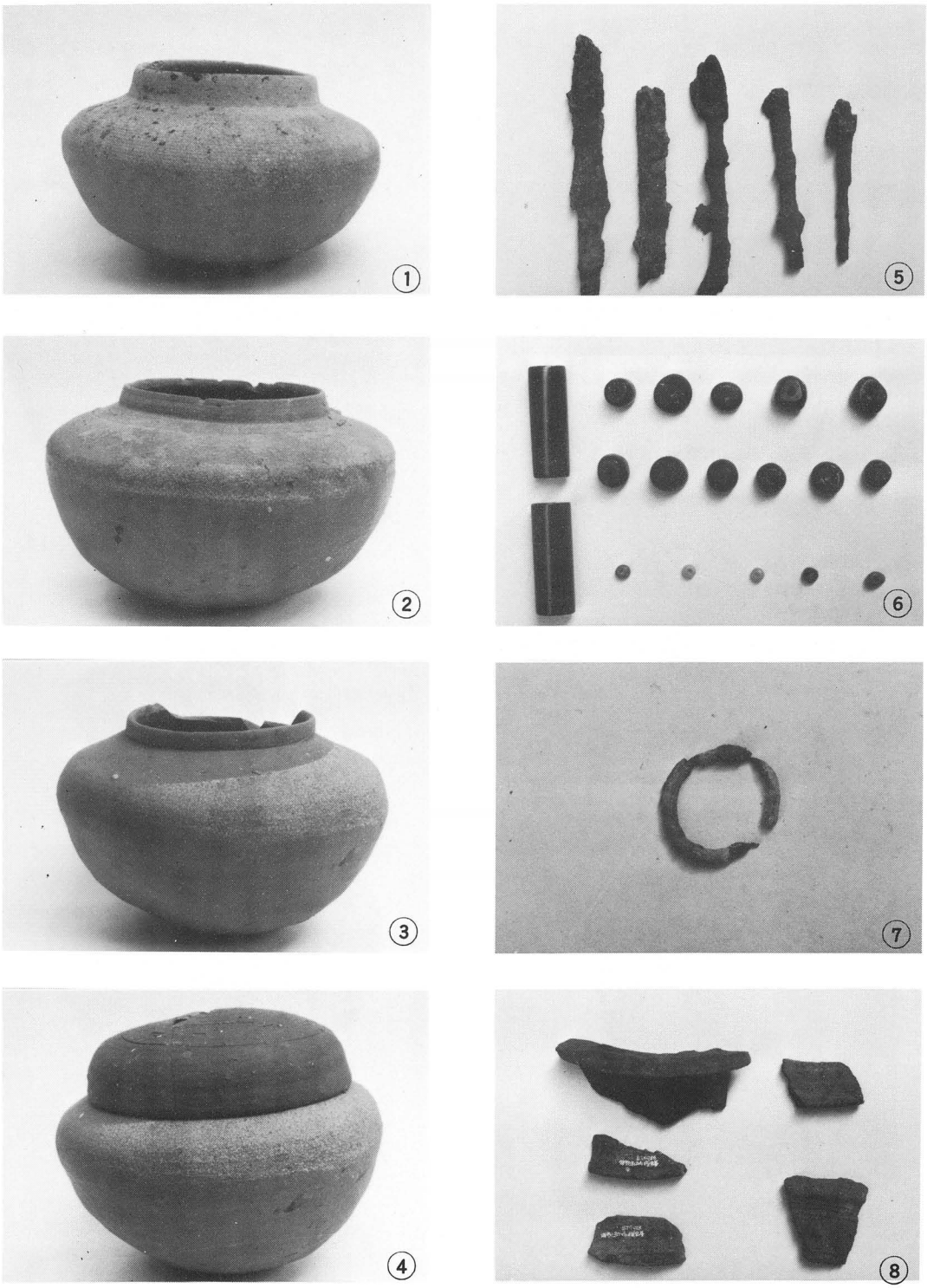
図版23　青ノ山9号墳石室(北より)



図版24　青ノ山８号墳出土遺物（杯・壺の蓋・器台？）



図版25　青ノ山8号墳出土遺物（壺・提瓶・甕）



図版26　青ノ山8号墳出土遺物(壺・鉄鏃・装身具・弥生土器)

青ノ山８号・９号墳発掘調査概報

―― 香川県丸亀市青ノ山山頂所在の
後期，終末期古墳 ――

１９８４年３月３１日　発行

発行　丸亀市教育委員会
丸亀市大手町２－１

印刷　久郷印刷有限会社
丸亀市福島町８４番地